

大学番号：私立020

注3

[平成29年度設置]

計画の区分：学部の設置

注1

認可

医療創生大学 看護学部 看護学科

(旧名称：いわき明星大学(平成31年度より大学名称変更))

注2

【認可】設置に係る設置計画履行状況報告書

学校法人医療創生大学
令和2年5月1日現在

作成担当者

担当部局(課)名 企画課

職名・氏名 ショキ スズキ トモヒロ
書記・鈴木 智博

電話番号 0246-29-5327

(夜間) 0246-29-5111

F A X 0246-29-5105

e-mail kikaku@isu.ac.jp

(注) 1 「計画の区分」は設置時の基本計画書「計画の区分」と同様に記載してください。

2 大学院の場合は、表題を「〇〇大学大学院・・・」と記入してください。

設置時から対象学部等の名称変更があった場合には、表題には現在の名称を記載し、その下欄に

()書きにて、設置時の旧名称を記載してください。

例) 〇〇大学 △△学部 □□学科

(旧名称：◇◇学科(平成◇◇年度より学科名称変更))

表題は「計画の区分」に従い、記入してください。

例)

- 大学の設置の場合：「〇〇大学」
- 学部の設置の場合：「〇〇大学 △△学部」
- 学部の学科の設置の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科」
- 短期大学の学科の設置の場合：「〇〇短期大学 △△学科」
- 大学院設置の場合：「〇〇大学大学院」
- 大学院の研究科の設置の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科」
- 大学院の研究科の専攻の設置等の場合：「〇〇大学大学院 〇〇研究科 〇〇専攻(修士課程)」
- 通信教育課程の開設の場合：「〇〇大学 △△学部 □□学科(通信教育課程)」

3 大学番号の欄については、調査対象大学等に対して別途発出する、事務連絡「令和2年度の履行状況報告書の提出について(依頼)」の別紙に記載のある大学番号を記載してください。

目次

看護学部

＜看護学科＞	ページ
1. 調査対象大学等の概要等	1
2. 授業科目の概要	5
3. 施設・設備の整備状況、経費	16
4. 既設大学等の状況	18
5. 教員組織の状況	20
6. 附帯事項等に対する履行状況等	37
7. その他全般的事項	44

1 調査対象大学等の概要等

(1) 設置者

学校法人医療創生大学
学校法人いわき明星大学

(2) 大学名

医療創生大学
いわき明星大学

(3) 調査対象大学等の位置

〒970-8551
福島県いわき市中央台飯野5丁目5番地1
(〒100-0011 東京都千代田区内幸町一丁目1番1号)

- (注) ・対象学部等の位置が大学本部の位置と異なる場合、本部の位置を()書きで記入してください。
・対象学部等が複数のキャンパスに所在する場合には、複数のキャンパスの所在地をそれぞれ記載してください。

(4) 管理運営組織

職名	設置時	変更状況	備考
理事長	(オガワ テツオ) 小川 哲生 (平成27年8月)	(シンタニ タカヨシ) 新谷 幸義 (平成31年4月) -(平成29年11月)-	法人合併に伴う寄附行為変更のため 平成31年4月3日(元) 理事長の交代 平成29年11月24日(30)
学長	(ヤマザキ ヨウジ) 山崎 洋次 (平成25年4月)	(シンタニ タカヨシ) 新谷 幸義 (令和2年4月)	学長の交代 令和2年4月1日(2)
学部長	(クメ ミヨコ) 久米 美代子 (平成29年4月)		
学科長等	(クロダ マリコ) 黒田 眞理子 (平成29年4月)	(オオホリ ノボル) 大堀 昇 (平成31年4月)	前学科主任死亡(平成31年3月7日)のため 平成31年4月1日(元)

- (注) ・「変更状況」は、変更があった場合に記入し、併せて「備考」に変更の理由と変更年月日、報告年度を()書きで記入してください。

(例) 令和元年度に報告済の内容 → (元)

令和2年度に報告する内容 → (2)

- ・昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更があれば、「変更状況」に赤字にて記載(昨年度までに報告された記載があれば、そこに赤字で見え消し修正)するとともに、上記と同様に、「備考」に変更理由等を記入してください。
- ・大学院の場合には、「職名」を「研究科長」等と修正して記入してください。
- ・大学独自の職名を設けていて当該職位がない場合は、各職に相当する職名の方を記載してください。

(5) 調査対象学部等の名称、定員、入学者の状況等

- (注) ・ 当該調査対象の学部や学科または研究科の専攻等、定員を定めている組織ごとに記入してください(入試区分ごとではありません)。
- ・ なお、課程認定等によりコースや専攻に入学定員を定めている場合は、法令上規定されている最小単位(大学であれば「学科」、短期大学であれば「専攻課程」)でも記載してください。その場合適宜各項目の表を追加してください。
- ・ 様式は、平成28年度開設の4年制の学科の完成年度を越えて報告する場合(令和2年度までの5年間)ですが、完成年度を越えていない場合は修業年限に合わせて作成してください。(修業年限が4年以下の場合には欄を削除し、5年以上の場合には、欄を設けてください。)
- ・ 留学生については、「出入国管理及び難民認定法」別表第一に定められる「『留学』の在留資格(いわゆる「留学ビザ」)により、我が国の大学(大学院を含む。)、短期大学、高等専門学校、専修学校(専門課程)及び我が国の大学に入学するための準備教育課程を設置する教育施設において教育を受ける外国人学生」を記載してください。
- ・ 短期交換留学生など、定員内に含めていない学生については記入しないでください。

(5) - ① 調査対象学部等の名称等

調査対象学部等の名称(学位)	学位又は学科の分野	設置時の計画				備考
		修業年限	入学定員	編入学定員	收容定員	
看護学部 看護学科 学士(看護学)	保健衛生学関係 (看護学関係)	4年	80人	— 年次 — 人	320人	

- (注) ・ 定員を変更した場合は、「備考」に変更前の人数、変更年月及び報告年度を()書きで記入してください。
- ・ 基礎となる学部等がある場合には、「備考」に基礎となる学部等の名称を記入してください。
- ・ 学生募集停止を予定している場合は、「備考」に「令和〇年度から学生募集停止(予定)」と記載してください。
- ・ 「学位又は学科の分野」には、「認可申請書」又は「設置届出書」の「教育課程等の概要(別記様式第2号(その2の1))」の「学位又は学科の分野」と同様に記入してください。

(5) - ② 調査対象学部等の入学者の状況

区分	対象年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		平均入学定員超過率	開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率	備考
	平成28年度	平成29年度	平成30年度	令和元年度	令和2年度	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学			
A 入学定員	— (—) [—]	80 (—) [—]	80 (—) [—]	80 (—) [—]	80 (—) [—]	80 (—) [—]	80 (—) [—]	80 (—) [—]	80 (—) [—]	80 (—) [—]	1.06倍	—倍	
志願者数	— (—) [—]	160 (—) [—]	162 (—) [—]	319 (—) [—]	293 (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]			
受験者数	— (—) [—]	157 (—) [—]	154 (—) [—]	313 (—) [—]	289 (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]			
合格者数	— (—) [—]	134 (—) [—]	151 (—) [—]	256 (—) [—]	227 (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]			
B 入学者数	— (—) [—]	86 (—) [—]	80 (—) [—]	100 (—) [—]	76 (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]	— (—) [—]			
入学定員超過率 B/A	—	1.07	1.00	1.25	0.95								

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ () 内には、編入学の状況について外数で記入してください。なお、編入学を複数年次で行っている場合には、(())書きとするなどし、その旨を「備考」に付記してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
- ・ 転入学生は記入しないでください。
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
- ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学の実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
- ・ 「入学定員超過率」については、各年度の春季入学とその他を合計した入学定員、入学者数で算出してください。なお、計算の際は小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで記入してください。
- ・ 「平均入学定員超過率」には、開設年度から報告年度までの入学定員超過率の平均を記入してください。計算の際は「入学定員超過率」と同様にしてください。なお、完成年度を越えて報告書を提出する大学等は、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
- ・ 「開設年度から報告年度までの平均入学定員超過率」は、完成年度を越えて報告書を提出する大学等のみ記入してください。完成年度を越えていない場合は「—」を記入してください。

(5) - ③ 調査対象学部等の在学者の状況

対象年度 学 年	平成28年度		平成29年度		平成30年度		令和元年度		令和2年度		備 考	
	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期	春季入学	その他の学期		
1年次	— [—] (—)	— [—] (—)	86 [—] (—)	— [—] (—)	81 [—] (1)	— [—] (—)	100 [—] (—)	— [—] (—)	84 [—] (8)	— [—] (—)	H30年度 1年次 (入学80名+留年1名) R2年度 1年次 (入学76名+留年8名)	
2年次	/		— [—] (—)	— [—] (—)	84 [—] (—)	— [—] (—)	85 [—] (6)	— [—] (—)	92 [—] (4)	— [—] (—)		
3年次			/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	74 [—] (—)	— [—] (—)		75 [—] (—)
4年次					/		— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)	— [—] (—)		— [—] (—)
計			— [—] (—)	86 [—] (—)			165 [—] (1)	259 [—] (6)	323 [—] (12)			

・令和2年5月1日 公表

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ []内には、留学生の状況について内数で記入してください。該当がない年度には「—」を記入してください。
 - ・ ()内には、留年者の状況について、内数で記入してください。該当がない年には「—」を記入してください。
 - ・ 編入学生や転入学生も含めて記入してください。その際、備考欄に人数の内訳を記入してください。
 - ・ 学期の区分に従い学生を入学させる場合は、春季入学とその他の学期(春季入学以外の学期区分を設けている場合)に分けて数値を記入してください。春季入学のみの実施の場合は、その他の学期欄は「—」を記入してください。また、その他の学期に入学定員を設けている場合は、備考欄にその人数を記入してください。
 - ・ 「計」については、各年度の春季入学とその他の学期を合計した在学者数、留学生数を記入してください。

(5) - ④ 調査対象学部等の退学者等の状況

区分 対象年度	在学者数(b)	退学者数(a)	内訳			主な退学理由 (留学生の理由は[]書き)
			入学した年度	退学者数		
				うち留学生数		
平成28年度	— 人	— 人	平成28年度	— 人	— 人	
平成29年度	86 人	1 人	平成28年度	0 人	0 人	
			平成29年度	1 人	0 人	進路変更(就職)(1人)
平成30年度	165 人	5 人	平成28年度	0 人	0 人	
			平成29年度	4 人	0 人	一身上の都合(2人)、進路変更(進学)(1人)、就学意欲の低下(1人)
			平成30年度	1 人	0 人	体調不良(1人)
令和元年度	259 人	13 人	平成28年度	0 人	0 人	
			平成29年度	4 人	0 人	一身上の都合(1人)、就学意欲の低下(1人)、学力不足(1人)、体調不良(1人)
			平成30年度	5 人	0 人	他学部への転籍(1人)、体調不良(1人)、進路変更(就職)(2人)、進路変更(検討中)(1人)
			令和元年度	4 人	0 人	一身上の都合(2人)、進路変更(進学)(1人)、体調不良(1人)
令和2年度	323 人	0 人	平成28年度	0 人	0 人	
			平成29年度	0 人	0 人	
			平成30年度	0 人	0 人	
			令和元年度	0 人	0 人	
			令和2年度	0 人	0 人	
合 計		19 人		19 人	0 人	

(注)・数字は、報告年度の5月1日現在の数字を記入してください。

- ・各対象年度の在学者数については、対象年度の人数を記入してください。(在学者数から退学者数を減らす必要はありません。)
- ・内訳については、退学した学生が入学した年度ごとに記入してください。また、留学生数欄の人数については、退学者数の内数を記入してください。
- ・在学者数、退学者数には編入学生や転入学生も含めて記入してください。
- ・「主な退学理由」は、下の項目を参考に記入してください。その際、「就学意欲の低下(〇人)」というように、その人数も含めて記入してください。

(記入項目例)・就学意欲の低下 ・学力不足 ・他の教育機関への入学・転学 ・海外留学
 ・就職 ・学生個人の心身に関する事情 ・家庭の事情 ・除籍 ・その他

(5) - ⑤ 調査対象学部等の年度ごとの退学者の割合

【平成28年度】

$$\frac{\text{平成28年度の退学者数(a)}}{\text{平成28年度の在学者数(b)}} = \frac{—}{—} = \boxed{—} \%$$

【平成29年度】

$$\frac{\text{平成29年度の退学者数(a)}}{\text{平成29年度の在学者数(b)}} = \frac{1}{86} = \boxed{1.16} \%$$

【平成30年度】

$$\frac{\text{平成30年度の退学者数(a)}}{\text{平成30年度の在学者数(b)}} = \frac{5}{165} = \boxed{3.03} \%$$

【令和元年度】

$$\frac{\text{令和元年度の退学者数(a)}}{\text{令和元年度の在学者数(b)}} = \frac{13}{259} = \boxed{5.01} \%$$

【令和2年度】

$$\frac{\text{令和2年度の退学者数(a)}}{\text{令和2年度の在学者数(b)}} = \frac{0}{323} = \boxed{0} \%$$

(注)・小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

2 授業科目の概要

<看護学部 看護学科>

(1) -① 授業科目表

【認可時又は届出時】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通教育科目	フレッシュヤーズセミナー	1前	2			6	1	3	3			
	日本語リテラシー	1前	1									3
	コンピュータリテラシー	1前	1									2
	英語A1	1前	1									4
	英語A2	1後	1									4
	英語B1	1前	1									4
	英語B2	1後	1									4
	英語C1	234前	1									4
	英語C2	234後	1									4
	中国語1	234前		1								1
	中国語2	234後		1								1
	韓国語1	234前		1								1
	韓国語2	234後		1								1
	哲学の世界	1234前		2								1
	ことばの科学	1234前		2								1
	心の科学	1234前		2								1
	世界の歴史と文化	1234前		2								1
	倫理学の世界	1234後		2								1
	芸術の世界	1234後		2								1
	文学の世界	1234後		2								1
	日本の歴史と文化	1234後		2								1
	法学入門	1234前		2								1
	経済学入門	1234前		2								1
	社会学入門	1234前		2								1
	災害からの復興	1234前		2								5
	暮らしのなかの憲法	1234後		2								1
	経営学入門	1234後		2								1
	ジェンダー論	1234後		2								1
	政治学入門	1234後		2								1
	自然科学のあゆみ	1234前		2								2
	健康と薬	1234前		2								3
	統計のしくみ	1234前		2								1
	生命の科学	1234後		2								1
	食品の科学	1234後		2								2
	地球環境の科学	1234後		2								1
	健康の科学	1前	2									2
	健康・スポーツ1	1234前	1									3
	健康・スポーツ2	1234後	1									3
小計(38科目)	-	-	14	48	0							
専門教育科目	人体の構造と機能1	1前	2			1						
	人体の構造と機能2	1前	2			1						
	生化学	1前	2				1					
	人間栄養学	1後	2				1					
	微生物学	1前	2									1
	薬理学	1後	2			1	1					
	臨床心理学	2前	1									1
	疾病治療論1	1後	2									1
	疾病治療論2	2前	2									1
	疾病治療論3	4前	1									1
	放射線と環境	1後	1									1
	放射線と人体	2後	1									1
	社会福祉学	2前	2									1
	公衆衛生学	2前	2			1						
	保健統計学	2前	2		2	1						
	疫学	3前	2		2	1						
	保健医療福祉行政論	3後	2		2							1
	看護実践基礎学Ⅰ(看護学原論)	1前	2			3	1					
看護実践基礎学Ⅱ(コミュニケーション)	1後	2			2	1	1	1	2			
看護実践基礎学Ⅲ(アセスメント技術)	1後	2			1	1	2	1	2			

【令和2年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通教育科目	フレッシュヤーズセミナー	1前	2					4	3	5	2	
	日本語リテラシー	1前	1									3
	コンピュータリテラシー	1前	1									2
	英語A1	1前	1									4
	英語A2	1後	1									4
	英語B1	1前	1									2
	英語B2	1後	1									2
	英語C1	234前	1									3
	英語C2	234後	1									3
	中国語1	234前		1								1
	中国語2	234後		1								1
	韓国語1	234前		1								1
	韓国語2	234後		1								1
	哲学の世界	1234前		2								1
	ことばの科学	1234前		2								1
	心理学概論	1234前		2								1
	世界の歴史と文化	1234前		2								1
	倫理学の世界	1234後		2								1
	芸術の世界	1234後		2								1
	文学の世界	1234後		2								1
	日本の歴史と文化	1234後		2								1
	法学入門	1234前		2								1
	経済学入門	1234前		2								1
	社会学入門	1234前		2								1
	災害からの復興	1234前		2								3
	暮らしのなかの憲法	1234後		2								1
	経済学入門	1234後		2								1
	ジェンダー論	1234後		2								1
	政治学入門	1234後		2								1
	自然科学のあゆみ	1234前		2								1
	健康と薬	1234前		2								3
	統計のしくみ	1234前		2								1
	生命の科学	1234後		2								5
	食品の科学	1234後		2								2
	地球環境の科学	1234後		2								1
	健康の科学	1前	2									1
	健康・スポーツ1	1234前	1									2
	健康・スポーツ2	1234後	1									2
小計(38科目)	-	-	14	48	0							
専門教育科目	人体の構造と機能1	1前	2			1						
	人体の構造と機能2	1前	2			1						
	生化学	1前	2					1				
	人間栄養学	1後	2					1				
	微生物学	1前	2									1
	薬理学	1後	2			1	1					
	臨床心理学	2前	1									1
	疾病治療論1	1後	2									1
	疾病治療論2	2前	2									1
	疾病治療論3	4前	1									1
	放射線と環境	1後	1									1
	放射線と人体	2後	1									1
	社会福祉学	2前	2									1
	公衆衛生学	2前	2					0		1		
	保健統計学	2前	2		2	1		0		1		
	疫学	3前	2		2	1		0		1		
	保健医療福祉行政論	3後	2		2							1
	看護実践基礎学Ⅰ(看護学原論)	1前	2			3	0	1				
看護実践基礎学Ⅱ(コミュニケーション)	1後	2			1	0	3	0	2			
看護実践基礎学Ⅲ(アセスメント技術)	1後	2			1	0	3	0	2			

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	看護実践基礎学IV(生活援助技術)	1後	2			1	2	1	1	2	
	看護実践基礎学V(診療補助技術)	2前	2			1	2	1	1	2	
	看護実践基礎学VI(看護過程)	2前	2			1	1	1	2	2	1
	看護実践基礎学実習(基礎)1	1後	1				2	4	8	2	
	看護実践基礎学実習(基礎)2	2前	2				2	4	8	2	
	生涯発達看護学(成人)	1後	1			2					
	健康生活看護学(成人概論)	2前	1			2					
	健康生活看護学(成人-急性期)	2後	1			1			1		
	健康生活看護学(成人-周手術期)	2後	1			1		1			
	健康生活看護学(成人-慢性期)	2後	1			1	1				
	健康生活看護学(成人-回復終末期)	2後	1			1	1				
	健康生活看護学実習(成人)	3前-後	6			2	1	1	2	3	
	生涯発達看護学(老年)	1後	1			1					
	健康生活看護学(老年概論)	2前	1			1					
	健康生活看護学(老年援助)	2後	2			1	1				
	健康生活看護学実習(老年)1	2後	1			3	1	2		2	
	健康生活看護学実習(老年)2	3前-後	3			3	1	1		3	
	生涯発達看護学(母性)	1後	1			1					
	健康生活看護学(母性概論)	2前	1			1					
	健康生活看護学(母性援助)	2後	2			1		2	1		
	健康生活看護学実習(母性)	3前-後	2					2	2	5	
	生涯発達看護学(小児)	1後	1			2					
	健康生活看護学(小児概論)	2前	1			1					
	健康生活看護学(小児援助)	2後	2			2			1		
	健康生活看護学実習(小児)	3前-後	2			2			2	5	
	健康生活看護学(精神概論)1	1後	1			1					
	健康生活看護学(精神概論)2	2前	1			1					
	健康生活看護学(精神援助)	2後	2			1					
	健康生活看護学実習(精神)	3前-後	2			1			1	3	
	地域養生看護学(在宅概論)	2前	2			2		3			
	地域養生看護学(在宅援助)	2後	2			3		1			
	地域養生看護学実習(在宅)	3前-後	2			2		2			
	看護倫理	3前	1			1					
	チーム医療	3前	1			1	1	2	1		2
	看護マネジメント	3前	1			1		1			
	医療安全	3前	1								1
	国際看護活動論	3後	1			2					
	放射線と健康支援	3後	1								1
	災害看護	4前	1			1					
	災害看護演習	4前	1			2			1		
訪問看護マネジメント	4前	1			2						
リハビリテーション看護論	4前		1		1						
コンサルテーション論	4前		1							1	
緩和ケア	4前		1		2	1				1	
クリティカルケア	4前		1				1				
看護学シミュレーション	3前	1			5	2	6	8	2	2	
看護学統合実習	4後	2			4	2	6	8	2	2	
看護援助技術レファレンス	4前	2			2	1	2	6	2	2	
看護研究	3後	1				1					
卒業研究	4通	2			12	4	5				
小計(70科目)	-	100	10	0							
保健師養成課程科目	公衆衛生看護学概論	3後			2	1					
	公衆衛生看護学方法論1	4前			2	1		1			
	公衆衛生看護学方法論2	4前			2	1		1			
	公衆衛生看護学活動論	4前			2	1		1			
	学校保健・産業保健	3後			2	1					
	公衆衛生看護学管理論	4後			2	1					
	公衆衛生看護学実習A	4前			2	1		2			
	公衆衛生看護学実習B	4前			3	1		2		2	
小計(8科目)	-	0	0	17							
合計(116科目)	-	114	58	17							
卒業要件及び履修方法											
(記入例) 必修科目114単位、専門教育科目の選択科目から4単位、全学共通教育科目の選択科目から6単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：45単位(年間))											

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手	
専門教育科目	看護実践基礎学IV(生活援助技術)	1後	2			1	1	2	0	2	
	看護実践基礎学V(診療補助技術)	2前	2			1	1	2	0	2	
	看護実践基礎学VI(看護過程)	2前	2			1	1	0	2	0	0
	看護実践基礎学実習(基礎)1	1後	1			1	1	4	3	2	2
	看護実践基礎学実習(基礎)2	2前	2			1	1	4	3	2	2
	生涯発達看護学(成人)	1後	1			0	1	1			
	健康生活看護学(成人概論)	2前	1			0	1	1			
	健康生活看護学(成人-急性期)	2後	1			0	1	1	0		
	健康生活看護学(成人-周手術期)	2後	1			0	1	1			
	健康生活看護学(成人-慢性期)	2後	1			0	1	1			
	健康生活看護学(成人-回復終末期)	2後	1			0	1	1			
	健康生活看護学実習(成人)	3前-後	6			0	1	1	0	3	
	生涯発達看護学(老年)	1後	1			0	1	1			
	健康生活看護学(老年概論)	2前	1			0	1	1			
	健康生活看護学(老年援助)	2後	2			0	0	1			
	健康生活看護学実習(老年)1	2後	1			1	0	2		2	
	健康生活看護学実習(老年)2	3前-後	3			1	0	2		3	
	生涯発達看護学(母性)	1後	1			1					
	健康生活看護学(母性概論)	2前	1			1					
	健康生活看護学(母性援助)	2後	2			1		2	0		
	健康生活看護学実習(母性)	3前-後	2			1		2	1	5	
	生涯発達看護学(小児)	1後	1			1					
	健康生活看護学(小児概論)	2前	1			1					
	健康生活看護学(小児援助)	2後	2			1			2		5
	健康生活看護学実習(小児)	3前-後	2			1			2	5	
	健康生活看護学(精神概論)1	1後	1			1		0			
	健康生活看護学(精神概論)2	2前	1			1		1			
	健康生活看護学(精神援助)	2後	2			1		1			
	健康生活看護学実習(精神)	3前-後	2			1		1	0	3	
	地域養生看護学(在宅概論)	2前	2			1		1			
	地域養生看護学(在宅援助)	2後	2			1		0			
	地域養生看護学実習(在宅)	3前-後	2			1	1	1	1		
	看護倫理	3前	1			1					
	チーム医療	3前	1			1	1	2	0		2
	看護マネジメント	3前	1			1		1			
	医療安全	3前	1								1
	国際看護活動論	3後	1			2					
	放射線と健康支援	3後	1								1
	災害看護	4前	1			0	1	1	1		
	災害看護演習	4前	1			0	2	1	1		
訪問看護マネジメント	4前	1			1						
リハビリテーション看護論	4前		1		1						
コンサルテーション論	4前		1							1	
緩和ケア	4前		1		2	1				1	
クリティカルケア	4前		1				1				
看護学シミュレーション	3前	1			3	2	6	2	2	2	
看護学統合実習	4後	2			3	3	7	3	2	2	
看護援助技術レファレンス	4前	2			2	1	5	2	2	2	
看護研究	3後	1			1	0					
卒業研究	4通	2			6	4	7	1			
小計(70科目)	-	100	10	0							
保健師養成課程科目	公衆衛生看護学概論	3後			2	0	1				
	公衆衛生看護学方法論1	4前			2	0	2	0			
	公衆衛生看護学方法論2	4前			2	0	2	0			
	公衆衛生看護学活動論	4前			2	0	2	0			
	学校保健・産業保健	3後			2	0	1				
	公衆衛生看護学管理論	4後			2	0	1				
	公衆衛生看護学実習A	4前			2	0	2	0			
	公衆衛生看護学実習B	4前			3	0	2	0		2	
小計(8科目)	-	0	0	17							
合計(116科目)	-	114	58	17							
卒業要件及び履修方法											
(記入例) 必修科目114単位、専門教育科目の選択科目から4単位、全学共通教育科目の選択科目から6単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：45単位(年間))											

【平成29年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学 共通 教育 科目	フレッシュャーズセミナー	1前	2			6	1	3	3			
	日本語リテラシー	1前	1									3
	コンピュータリテラシー	1前	1									2
	英語A1	1前	1									4
	英語A2	1後	1									4
	英語B1	1前	1									3
	英語B2	1後	1									3
	英語C1	234前	1									3
	英語C2	234後	1									3
	中国語1	234前		1								1
	中国語2	234後		1								1
	韓国語1	234前		1								1
	韓国語2	234後		1								1
	哲学の世界	1234前		2								1
	ことばの科学	1234前		2								1
	心の科学	1234前		2								1
	世界の歴史と文化	1234前		2								1
	倫理学の世界	1234後		2								1
	芸術の世界	1234後		2								1
	文学の世界	1234後		2								1
	日本の歴史と文化	1234後		2								1
	法学入門	1234前		2								1
	経済学入門	1234前		2								1
	社会学入門	1234前		2								1
	災害からの復興	1234前		2								5
	暮らしのなかの憲法	1234後		2								1
	経営学入門	1234後		2								1
	ジェンダー論	1234後		2								1
	政治学入門	1234後		2								1
	自然科学のあゆみ	1234前		2								2
	健康と薬	1234前		2								3
	統計のしくみ	1234前		2								1
	生命の科学	1234後		2								1
	食品の科学	1234後		2								2
	地球環境の科学	1234後		2								1
	健康の科学	1前	2									2
健康・スポーツ1	1234前	1									3	
健康・スポーツ2	1234後	1									3	
小計(38科目)	-		14	48	0							
専門 教育 科目	人体の構造と機能1	1前	2			1						
	人体の構造と機能2	1前	2			1						
	生化学	1前	2				1					
	人間栄養学	1後	2				1					
	微生物学	1前	2									1
	薬理学	1後	2			1	1					
	臨床心理学	2前	1									1
	疾病治療論1	1後	2									1
	疾病治療論2	2前	2									1
	疾病治療論3	4前	1									1
	放射線と環境	1後	1									1
	放射線と人体	2後	1									1
	社会福祉学	2前	2									1
	公衆衛生学	2前	2			1						
	保健統計学	2前	2			1						
	疫学	3前	2			1						
	保健医療福祉行政論	3後	2									1
	看護実践基礎学Ⅰ(看護学原論)	1前	2			3	1					
	看護実践基礎学Ⅱ(コミュニケーション)	1後	2			2	1	1	1	2		
	看護実践基礎学Ⅲ(アセスメント技術)	1後	2			1	1	2	1	2		
看護実践基礎学Ⅳ(生活援助技術)	1後	2			1	2	1	1	2			
看護実践基礎学Ⅴ(診療補助技術)	2前	2			1	2	1	1	2			
看護実践基礎学Ⅵ(看護過程)	2前	2			1	1	1	2	2	1		
看護実践基礎学実習(基礎)1	1後	1			2	3	7	2	2			
看護実践基礎学実習(基礎)2	2後	2			2	3	7	2	2			
生涯発達看護学(成人)	1後	1			2							
健康生活看護学(成人概論)	2前	1			2							

【平成30年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学 共通 教育 科目	フレッシュャーズセミナー	1前	2			6	1	5	1			
	日本語リテラシー	1前	1									3
	コンピュータリテラシー	1前	1									2
	英語A1	1前	1									4
	英語A2	1後	1									4
	英語B1	1前	1									3
	英語B2	1後	1									3
	英語C1	234前	1									3
	英語C2	234後	1									3
	中国語1	234前		1								1
	中国語2	234後		1								1
	韓国語1	234前		1								1
	韓国語2	234後		1								1
	哲学の世界	1234前		2								1
	ことばの科学	1234前		2								1
	心理学概論	1234前		2								1
	世界の歴史と文化	1234前		2								1
	倫理学の世界	1234後		2								1
	芸術の世界	1234後		2								1
	文学の世界	1234後		2								1
	日本の歴史と文化	1234後		2								1
	法学入門	1234前		2								1
	経済学入門	1234前		2								2
	社会学入門	1234前		2								1
	災害からの復興	1234前		2								4
	暮らしのなかの憲法	1234後		2								1
	経営学入門	1234後		2								1
	ジェンダー論	1234後		2								1
	政治学入門	1234後		2								1
	自然科学のあゆみ	1234前		2								1
	健康と薬	1234前		2								3
	統計のしくみ	1234前		2								1
	生命の科学	1234後		2								5
	食品の科学	1234後		2								2
	地球環境の科学	1234後		2								1
	健康の科学	1前	2									2
健康・スポーツ1	1234前	1									3	
健康・スポーツ2	1234後	1									3	
小計(38科目)	-		14	48	0							
専門 教育 科目	人体の構造と機能1	1前	2			1						
	人体の構造と機能2	1前	2			1						
	生化学	1前	2				1					
	人間栄養学	1後	2				1					
	微生物学	1前	2									1
	薬理学	1後	2			1	1					
	臨床心理学	2前	1									1
	疾病治療論1	1後	2									1
	疾病治療論2	2前	2									1
	疾病治療論3	4前	1									1
	放射線と環境	1後	1									1
	放射線と人体	2後	1									1
	社会福祉学	2前	2									1
	公衆衛生学	2前	2			0		1				
	保健統計学	2前	2			0		1				
	疫学	3前	2			0		1				
	保健医療福祉行政論	3後	2									1
	看護実践基礎学Ⅰ(看護学原論)	1前	2			1	0					
	看護実践基礎学Ⅱ(コミュニケーション)	1後	2			0	0	1	0	2		
	看護実践基礎学Ⅲ(アセスメント技術)	1後	2			0	0	2	0	2		
看護実践基礎学Ⅳ(生活援助技術)	1後	2			0	1	1	0	2			
看護実践基礎学Ⅴ(診療補助技術)	2前	2			0	1	1	0	2			
看護実践基礎学Ⅵ(看護過程)	2前	2			0	0	1	1	2	1		
看護実践基礎学実習(基礎)1	1後	1			1	1	4	5	2			
看護実践基礎学実習(基礎)2	2前	2			1	1	4	5	2			
生涯発達看護学(成人)	1後	1			0							
健康生活看護学(成人概論)	2前	1			0							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	健康生活看護学(成人・急性期)	2後	1			1			1			
	健康生活看護学(成人・周手術期)	2後	1			1		1				
	健康生活看護学(成人・慢性期)	2後	1			1	1					
	健康生活看護学(成人・回復終末期)	2後	1			1	1					
	健康生活看護学実習(成人)	3前・後	6			2	1	1	2	3		
	生涯発達看護学(老年)	1後	1			1						
	健康生活看護学(老年概論)	2前	1			1						
	健康生活看護学(老年援助)	2後	2			1	1					
	健康生活看護学実習(老年)1	2後	1			3	1	2	2			2
	健康生活看護学実習(老年)2	3前・後	3			3	1	1	3			3
	生涯発達看護学(母性)	1後	1			1						
	健康生活看護学(母性概論)	2前	1			1						
	健康生活看護学(母性援助)	2後	2			1		2	1			
	健康生活看護学実習(母性)	3前・後	2			1		2	2	5		
	生涯発達看護学(小児)	1後	1			1						
	健康生活看護学(小児概論)	2前	1			0						
	健康生活看護学(小児援助)	2後	2			1			1			
	健康生活看護学実習(小児)	3前・後	2			1			2	5		
	健康生活看護学(精神概論)1	1後	1			1						
	健康生活看護学(精神概論)2	2前	1			1						
	健康生活看護学(精神援助)	2後	2			1			1			
	健康生活看護学実習(精神)	3前・後	2			1			1	3		
	地域養生看護学(在宅概論)	2前	2			3						
	地域養生看護学(在宅援助)	2後	2			3		0				
	地域養生看護学実習(在宅)	3前・後	2			2		1				
	看護倫理	3前	1			1						
	チーム医療	3前	1			1	1	2	1			2
	看護マネジメント	3前	1			1		1				
	医療安全	3前	1									1
	国際看護活動論	3後	1			2						
	放射線と健康支援	3後	1									1
	災害看護	4前	1			1						
	災害看護演習	4前	1			2			1			
	訪問看護マネジメント	4前	1			2						
	リハビリテーション看護論	4前	1			1						
	コンサルテーション論	4前		1								1
	緩和ケア	4前		1		2	1					1
	クリティカルケア	4前		1				1				
	看護学シミュレーション	3前	1			4	2	5	7	2		2
	看護学統合実習	4後	2			3	2	5	7	2		2
看護援助技術レファレンス	4前	2			1	1	2	5	2		2	
看護研究	3後	1					1					
卒業研究	4通	2			11	4	4					
小計(70科目)	-	100	10	0								
保健師養成課程科目	公衆衛生看護学概論	3後			2	1						
	公衆衛生看護方法論1	4前			2	1		1				
	公衆衛生看護方法論2	4前			2	1		0				
	公衆衛生看護活動論	4前			2	1		1				
	学校保健・産業保健	3後			2	1						
	公衆衛生看護管理論	4後			2	1		2				
	公衆衛生看護学実習A	4前			2	1		1				
	公衆衛生看護学実習B	4前			3	1		1			2	
小計(8科目)	-	0	0	17								
合計(116科目)	-	114	58	17								
卒業要件及び履修方法												
(記入例) 必修科目114単位、専門教育科目の選択科目から4単位、全学共通教育科目の選択科目から6単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：45単位(年間))												

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
専門教育科目	健康生活看護学(成人・急性期)	2後	1			0			1			
	健康生活看護学(成人・周手術期)	2後	1			0		1				
	健康生活看護学(成人・慢性期)	2後	1			0	1					
	健康生活看護学(成人・回復終末期)	2後	1			0	1					
	健康生活看護学実習(成人)	3前・後	6			0	1	1	1	3		
	生涯発達看護学(老年)	1後	1			1						
	健康生活看護学(老年概論)	2前	1			1						
	健康生活看護学(老年援助)	2後	2			1	1					
	健康生活看護学実習(老年)1	2後	1			3	1	2	2			2
	健康生活看護学実習(老年)2	3前・後	3			3	1	1	3			3
	生涯発達看護学(母性)	1後	1			1						
	健康生活看護学(母性概論)	2前	1			1						
	健康生活看護学(母性援助)	2後	2			1		2	1			
	健康生活看護学実習(母性)	3前・後	2			1		2	2	5		
	生涯発達看護学(小児)	1後	1			1						
	健康生活看護学(小児概論)	2前	1			1						
	健康生活看護学(小児援助)	2後	2			1			1			
	健康生活看護学実習(小児)	3前・後	2			1			2	5		
	健康生活看護学(精神概論)1	1後	1			0						
	健康生活看護学(精神概論)2	2前	1			0						
	健康生活看護学(精神援助)	2後	2			0		1				
	健康生活看護学実習(精神)	3前・後	2			0		1	1	3		
	地域養生看護学(在宅概論)	2前	2			2		2				
	地域養生看護学(在宅援助)	2後	2			2		0				
	地域養生看護学実習(在宅)	3前・後	2			2		1				
	看護倫理	3前	1			1						
	チーム医療	3前	1			0	1	2	1			2
	看護マネジメント	3前	1			1		1				
	医療安全	3前	1									1
	国際看護活動論	3後	1			2						
	放射線と健康支援	3後	1									1
	災害看護	4前	1			0						
	災害看護演習	4前	1			1		1	0			
	訪問看護マネジメント	4前	1			1						
	リハビリテーション看護論	4前		1		0						
	コンサルテーション論	4前		1								1
	緩和ケア	4前		1		1	1					1
	クリティカルケア	4前		1				1				
	看護学シミュレーション	3前	1			3	2	6	5	2		2
	看護学統合実習	4後	2			3	2	6	5	2		2
看護援助技術レファレンス	4前	2			1	1	2	3	2		2	
看護研究	3後	1					1					
卒業研究	4通	2			8	3	5					
小計(70科目)	-	100	10	0								
保健師養成課程科目	公衆衛生看護学概論	3後			2	1						
	公衆衛生看護方法論1	4前			2	1		1				
	公衆衛生看護方法論2	4前			2	1		0				
	公衆衛生看護活動論	4前			2	1		1				
	学校保健・産業保健	3後			2	1						
	公衆衛生看護管理論	4後			2	1		2				
	公衆衛生看護学実習A	4前			2	1		1				
	公衆衛生看護学実習B	4前			3	1		1			2	
小計(8科目)	-	0	0	17								
合計(116科目)	-	114	58	17								
卒業要件及び履修方法												
(記入例) 必修科目114単位、専門教育科目の選択科目から4単位、全学共通教育科目の選択科目から6単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：45単位(年間))												

【令和元年度】

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼担	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
全学共通教育科目	フレッシュワーズセミナー	1前	2			4	1	5	1			3
	日本語リテラシー	1前	1									2
	コンピュータリテラシー	1前	1									4
	英語A1	1前	1									4
	英語A2	1後	1									3
	英語B1	1前	1									3
	英語B2	1後	1									3
	英語C1	234前	1									3
	英語C2	234後	1									3
	中国語1	234前		1								1
	中国語2	234後		1								1
	韓国語1	234前		1								1
	韓国語2	234後		1								1
	哲学の世界	1234前		2								1
	ことばの科学	1234前		2								1
	心理学概論	1234前		2								1
	世界の歴史と文化	1234前		2								1
	倫理学の世界	1234後		2								1
	芸術の世界	1234後		2								1
	文学の世界	1234後		2								1
	日本の歴史と文化	1234後		2								1
	法学入門	1234前		2								1
	経済学入門	1234前		2								1
	社会学入門	1234前		2								1
	災害からの復興	1234前		2								4
	暮らしのなかの憲法	1234後		2								1
	経営学入門	1234後		2								1
	ジェンダー論	1234後		2								1
	政治学入門	1234後		2								1
	自然科学のあゆみ	1234前		2								3
	健康と薬	1234前		2								3
	統計のしくみ	1234前		2								1
	生命の科学	1234後		2								5
	食品の科学	1234後		2								2
	地球環境の科学	1234後		2								1
	健康の科学	1前	2									1
	健康・スポーツ1	1234前	1									2
	健康・スポーツ2	1234後	1									2
小計(38科目)		-	14	48	0							
専門教育科目	人体の構造と機能1	1前	2			1						
	人体の構造と機能2	1前	2			1						
	生化学	1前	2				1					
	人間栄養学	1後	2				1					
	微生物学	1前	2									1
	薬理学	1後	2			1	1					
	臨床心理学	2前	1									1
	疾病治療論1	1後	2									1
	疾病治療論2	2前	2									1
	疾病治療論3	4前	1									1
	放射線と環境	1後	1									1
	放射線と人体	2後	1									1
	社会福祉学	2前	2									1
	公衆衛生学	2前	2			0		1				
	保健統計学	2前		2		0		1				
	疫学	3前		2		0		1				
	保健医療福祉行政論	3後	2									1
看護実践基礎学Ⅰ(看護学原論)	1前	2			2	0	2					
看護実践基礎学Ⅱ(コミュニケーション)	1後	2			1	0	3	0	2			
看護実践基礎学Ⅲ(アセスメント技術)	1後	2			1	0	3	0	2			

科目 区分	授業科目の名称	配 当 年 次	単位数			専任教員等の配置						兼 任 ・ 兼 担
			必 修	選 択	自 由	教 授	准 教 授	講 師	助 教	助 手		
専門 教育 科目	看護実践基礎学IV(生活援助技術)	1後	2			1	1	2	0	2		
	看護実践基礎学V(診療補助技術)	2前	2			1	1	2	0	2		
	看護実践基礎学VI(看護過程)	2前	2			1	0	2	0	2		0
	看護実践基礎学実習(基礎)1	1後	1			1	1	5	2	2		
	看護実践基礎学実習(基礎)2	2前	2			1	1	5	5	2		
	生涯発達看護学(成人)	1後	1			0	1	1				
	健康生活看護学(成人概論)	2前	1			0	1					
	健康生活看護学(成人-急性期)	2後	1			0	1	1	0			
	健康生活看護学(成人-周手術期)	2後	1			0	1	1				
	健康生活看護学(成人-慢性期)	2後	1			0	1	1				
	健康生活看護学(成人-回復終末期)	2後	1			0	1	1				
	健康生活看護学実習(成人)	3前・後	6			0	1	1	0	3		
	生涯発達看護学(老年)	1後	1			1						
	健康生活看護学(老年概論)	2前	1			1						
	健康生活看護学(老年援助)	2後	2			1	0					
	健康生活看護学実習(老年)1	2後	1			2	0	2		2		
	健康生活看護学実習(老年)2	3前・後	3			2	0	1		3		
	生涯発達看護学(母性)	1後	1			1						
	健康生活看護学(母性概論)	2前	1			1						
	健康生活看護学(母性援助)	2後	2			1		2	0			
	健康生活看護学実習(母性)	3前・後	2			1		2	1	5		
	生涯発達看護学(小児)	1後	1			1						
	健康生活看護学(小児概論)	2前	1			1						
	健康生活看護学(小児援助)	2後	2			1			1			
	健康生活看護学実習(小児)	3前・後	2			1			1	5		
	健康生活看護学(精神概論)1	1後	1			0		1				
	健康生活看護学(精神概論)2	2前	1			0		1				
	健康生活看護学(精神援助)	2後	2			0		1				
	健康生活看護学実習(精神)	3前・後	2			0		1	0	3		
	地域養生看護学(在宅概論)	2前	2			1						
	地域養生看護学(在宅援助)	2後	2			1		0				
	地域養生看護学実習(在宅)	3前・後	2			1		1				
	看護倫理	3前	1			1						
	チーム医療	3前	1			0	1	2	0		2	
	看護マネジメント	3前	1			1		1				
	医療安全	3前	1								1	
	国際看護活動論	3後	1			2						
	放射線と健康支援	3後	1								1	
	災害看護	4前	1			0						
	災害看護演習	4前	1			0		1	0			
	訪問看護マネジメント	4前	1			1						
	リハビリテーション看護論	4前		1		1						
	コンサルテーション論	4前		1							1	
	緩和ケア	4前		1		1	1					1
	クリティカルケア	4前		1				1				
	看護学シミュレーション	3前	1			2	1	6	2	2		
	看護学統合実習	4後	2			2	1	7	2	2		
看護援助技術レファレンス	4前	2			1	0	4	0	2			
看護研究	3後	1			1	0						
卒業研究	4通	2			6	2	6					
小計(70科目)	-		100	10	0							

科目区分	授業科目の名称	配当年次	単位数			専任教員等の配置					兼任・兼任	
			必修	選択	自由	教授	准教授	講師	助教	助手		
保健師養成課程科目	公衆衛生看護学概論	3後			2	0						
	公衆衛生看護方法論1	4前			2	0		1				
	公衆衛生看護方法論2	4前			2	0		0				
	公衆衛生看護活動論	4前			2	0		1				
	学校保健・産業保健	3後			2	0						
	公衆衛生看護管理論	4後			2	0						
	公衆衛生看護学実習A	4前			2	0		1				
	公衆衛生看護学実習B	4前			3	0		1			2	
	小計(8科目)	-	0	0	17							
合計(116科目)	-	114	58	17								
卒業要件及び履修方法												
(記入例) 必修科目114単位、専門教育科目の選択科目から4単位、全学共通教育科目の選択科目から6単位以上を修得し、124単位以上修得すること。 (履修科目の登録の上限：45単位(年間))												

- (注) ・ 報告年度の5月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください。)
- ・ 本授業科目表は、開設年度から提出年度までの間において実際に実施された授業科目に関する情報として記入してください。
 - ・ 認可申請書又は設置届出書の様式第2号(その2の1)に準じて作成してください。
 - ・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る提出書類作成の手引き」の「教育課程等の概要」を確認してください。
 - ・ 「認可時又は届出時」には 設置認可時又は届出時の授業科目全て(兼任、兼任教員が担当する科目を含む。)を黒字で記入してください。その上で、認可時又は届出時から変更となっている箇所は**太字の赤字**としてください。
 - ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目についても科目名の後ろに「(未開講)」として記入してください。
 - ・ 1ページ目には認可時又は届出時と報告年度2つの表を記入してください。
 - ・ 不要な年度(平成29年度開設であれば平成28年度)の表は適宜削除してください。
(2つの表が1ページに表示されるようにしてください。)

(1) ②授業科目表に関する変更内容

【平成29年度】

- ・ 辞任の理由により、「英語B1」の兼任・兼担の配置を「4」から「3」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「英語B2」の兼任・兼担の配置を「4」から「3」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「英語C1」の兼任・兼担の配置を「4」から「3」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「英語C2」の兼任・兼担の配置を「4」から「3」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎）1」の専任教員等の配置を「講師4」から「講師3」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎）1」の専任教員等の配置を「助教8」から「助教7」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎）2」の専任教員等の配置を「講師4」から「講師3」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎）2」の専任教員等の配置を「助教8」から「助教7」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「生涯発達看護学（小児）」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「健康生活看護学（小児概論）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「健康生活看護学（小児援助）」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「健康生活看護学実習（小児）」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「地域養生看護学（在宅援助）」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「地域養生看護学実習（在宅）」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師1」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「看護学シミュレーション」の専任教員等の配置を「教授5」から「教授4」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「看護学シミュレーション」の専任教員等の配置を「講師6」から「講師5」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「看護学シミュレーション」の専任教員等の配置を「助教8」から「助教7」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「看護学統合実習」の専任教員等の配置を「教授4」から「教授3」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「看護学統合実習」の専任教員等の配置を「講師6」から「講師5」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「看護学統合実習」の専任教員等の配置を「助教8」から「助教7」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「看護援助技術レファレンス」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「看護援助技術レファレンス」の専任教員等の配置を「助教6」から「助教5」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「卒業研究」の専任教員等の配置を「教授12」から「教授11」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「卒業研究」の専任教員等の配置を「講師5」から「講師4」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「公衆衛生看護方法論2」の専任教員等の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「公衆衛生看護学実習A」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師1」に変更。
- ・ 就任辞退の理由により、「公衆衛生看護学実習B」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師1」に変更。

【平成30年度】

- ・ 職位変更及び講師就任の理由により、「フレッシュヤーズセミナー」の専任教員等の配置を「講師3」から「講師5」に変更。
- ・ 職位変更及び辞任の理由により、「フレッシュヤーズセミナー」の専任教員等の配置を「助教3」から「助教1」に変更。
- ・ 教育内容充実の理由により、「公衆衛生学」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ、「講師0」から「講師1」へ変更。
- ・ 教育内容充実の理由により、「保健統計学」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ、「講師0」から「講師1」へ変更。
- ・ 教育内容充実の理由により、「疫学」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ、「講師0」から「講師1」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「看護実践基盤学I（看護学原論）」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授1」へ、「准教授1」から「准教授0」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「看護実践基盤学II（コミュニケーション）」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授0」へ、「准教授1」から「准教授0」へ、「助教1」から「助教0」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「看護実践基盤学III（アセスメント技術）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ、「准教授1」から「准教授0」へ、「助教1」から「助教0」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「看護実践基盤学IV（生活援助技術）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ、「准教授2」から「准教授1」へ、「助教1」から「助教0」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「看護実践基盤学V（診療補助技術）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ、「准教授2」から「准教授1」へ、「助教1」から「助教0」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「看護実践基盤学VI（看護過程）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ、「准教授1」から「准教授0」へ、「助教2」から「助教1」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎1）」の専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授1」へ変更。
- ・ 職位変更の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎1）」の専任教員等の配置を「講師3」から「講師4」へ変更。
- ・ 職位変更及び辞任の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎1）」の専任教員等の配置を「助教7」から「助教5」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎2）」の専任教員等の配置を「准教授2」から「准教授1」へ変更。
- ・ 職位変更の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎2）」の専任教員等の配置を「講師3」から「講師4」へ変更。
- ・ 職位変更及び辞任の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎2）」の専任教員等の配置を「助教7」から「助教5」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「生涯発達看護学（成人）」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授0」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「健康生活看護学（成人概論）」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授0」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「健康生活看護学（成人・急性期）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「健康生活看護学（成人・周手術期）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「健康生活看護学（成人・慢性期）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「健康生活看護学（成人・回復終末期）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「健康生活看護学実習（成人）」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授0」へ、「助教2」から「助教1」へ変更。
- ・ 担当科目追加の理由により、「健康生活看護学（小児概論）」専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「健康生活看護学実習（精神概論）1」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「健康生活看護学実習（精神概論）2」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「健康生活看護学実習（精神援助）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ、「講師0」から「講師1」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「地域養生看護学（在宅概論）」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「地域養生看護学（在宅援助）」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「チーム医療」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「災害看護」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「災害看護演習」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」へ変更。
- ・ 職位変更の理由により、「災害看護演習」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」へ、「助教1」から「助教0」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「訪問看護マネジメント」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「リハビリテーション看護論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「緩和ケア」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「看護学シミュレーション」の専任教員等の配置を「教授4」から「教授3」へ変更。
- ・ 職位変更の理由により、「看護学シミュレーション」の専任教員等の配置を「講師5」から「講師6」へ変更。
- ・ 辞任及び職位変更の理由により、「看護学シミュレーション」の専任教員等の配置を「助教7」から「助教5」へ変更。
- ・ 職位変更の理由により、「看護学統合実習」の専任教員等の配置を「講師5」から「講師6」へ変更。
- ・ 辞任及び職位変更の理由により、「看護学統合実習」の専任教員等の配置を「助教7」から「助教5」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、「卒業研究」の専任教員等の配置を「教授11」から「教授8」へ、「准教授4」から「准教授3」へ変更。
- ・ 講師就任の理由により、専任教員等の配置を「講師4」から「講師5」へ変更。
- ・ 教養学部における公認心理師課程の整備の理由により、授業科目の名称を「心の科学」から「心理学概論」に変更。
- ・ 辞任の理由により、専任教員等の配置を「兼任・兼担1」から「兼任・兼担2」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、専任教員等の配置を「兼任・兼担2」から「兼任・兼担3」へ変更。
- ・ 辞任の理由により、専任教員等の配置を「兼任・兼担1」から「兼任・兼担5」へ変更。

【令和元年度】

- ・ 辞任の理由により、「フレッシュャーズセミナー」の専任教員等の配置を「教授6」から「教授4」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「経済学入門」の兼任・兼担の配置を「2」から「1」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「健康の科学」の兼任・兼担の配置を「2」から「1」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「健康・スポーツ1」の兼任・兼担の配置を「3」から「2」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「健康・スポーツ2」の兼任・兼担の配置を「3」から「2」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「看護実践基盤学Ⅰ（看護学原論）」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授2」へ、「講師0」から「講師2」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「看護実践基盤学Ⅱ（コミュニケーション）」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」へ、「講師1」から「講師3」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「看護実践基盤学Ⅲ（アセスメント技術）」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」へ、「講師2」から「講師3」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「看護実践基盤学Ⅳ（生活援助技術）」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」へ、「講師1」から「講師2」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「看護実践基盤学Ⅴ（診療補助技術）」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」へ、「講師1」から「講師2」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「看護実践基盤学Ⅵ（看護過程）」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」へ、「講師1」から「講師2」へ、変更。
- ・ 辞任の理由により、「看護実践基盤学Ⅳ（看護過程）」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎）1」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」へ、「講師4」から「講師5」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎）1」の専任教員等の配置を「助教5」から「助教2」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎）2」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」へ、「講師4」から「講師5」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎）2」の専任教員等の配置を「助教5」から「助教2」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「生涯発達看護学（成人）」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」へ、「講師0」から「講師1」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「健康生活看護学（成人概論）」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「健康生活看護学（成人・急性期）」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」へ、「講師0」から「講師1」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「健康生活看護学（成人・急性期）」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「健康生活看護学（成人・周手術期）」の専任教員等の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「健康生活看護学（成人・慢性期）」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「健康生活看護学（成人・回復終末期）」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「健康生活看護学実習（成人）」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「健康生活看護学（老年援助）」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「健康生活看護学実習（老年）1」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」へ、「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「健康生活看護学実習（老年）2」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」へ、「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「健康生活看護学（母性援助）」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「健康生活看護学実習（母性）」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「健康生活看護学実習（小児）」の専任教員等の配置を「助教2」から「助教1」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「健康生活看護学（精神概論）1」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「健康生活看護学（精神概論）2」の専任教員等の配置を「講師0」から「講師1」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「健康生活看護学実習（精神）」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「地域養生看護学（在宅概論）」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「地域養生看護学（在宅援助）」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「地域養生看護学実習（在宅）」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「チーム医療」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教0」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「災害看護演習」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「リハビリテーション看護論」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「看護学シミュレーション」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」へ、「准教授2」から「准教授1」へ、「助教5」から「助教2」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「看護学統合実習」の専任教員等の配置を「教授3」から「教授2」へ、「准教授2」から「准教授1」へ、「助教5」から「助教2」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「看護学統合実習」の専任教員等の配置を「講師6」から「講師7」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「看護援助技術レファレンス」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」へ、「助教5」から「助教0」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「看護援助技術レファレンス」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師4」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「看護研究」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授0」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「看護研究」の専任教員等の配置を「教授0」から「教授1」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「卒業研究」の専任教員等の配置を「教授8」から「教授6」へ、「准教授3」から「准教授2」に変更。
- ・ 教員補充の理由により、「卒業研究」専任教員等の配置を「講師5」から「講師6」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「公衆衛生看護学概論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「公衆衛生看護学方法論1」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「公衆衛生看護学方法論2」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「公衆衛生看護学活動論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「学校保健・産業保健」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「公衆衛生看護学管理論」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「公衆衛生看護学実習A」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。
- ・ 辞任の理由により、「公衆衛生看護学実習B」の専任教員等の配置を「教授1」から「教授0」に変更。

【令和2年度】

<ul style="list-style-type: none"> ・教員補充の理由により、「フレッシュャーズセミナー」の専任教員等の配置を「准教授1」から「准教授3」に変更。 ・教員補充の理由により、「フレッシュャーズセミナー」の専任教員等の配置を「助教1」から「助教2」に変更。 ・「英語B1」の兼任・兼担の配置を「兼任・兼担3」から「兼任・兼担2」（共同担当教員がいるため支障はない）。 ・「英語B2」の兼任・兼担の配置を「兼任・兼担3」から「兼任・兼担2」（共同担当教員がいるため支障はない）。 ・「災害からの復興」の兼任・兼担の配置を、平成30年度（追加事項）から「兼任・兼担4」、令和2年度から「兼任・兼担3」（共同担当教員がいるため支障はない）。 ・教員補充の理由により、「看護実践基盤学Ⅰ（看護学原論）」の専任教員等の配置を「教授2」から「教授3」に変更。 ・教員退職の理由により、「看護実践基盤学Ⅰ（看護学原論）」の専任教員等の配置を「講師2」から「講師1」に変更。 ・教員退職の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎）1」の専任教員等の配置を「講師5」から「講師4」に変更。 ・教員補充の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎）1」の専任教員等の配置を「助教2」から「講師3」に変更。 ・「看護実践基盤学Ⅵ（看護過程）」の兼任・兼担の配置を、令和元年度（追加事項）「兼任・兼担1」から「兼任・兼担0」（共同担当教員がいるため支障はない）。 ・教員退職の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎）2」専任教員等の配置を「講師5」から「講師4」に変更（共同担当教員がいるため支障はない）。 ・教員退職の理由により、「看護実践基盤学実習（基礎）2」専任教員等の配置を「助教5」から「講師3」に変更（共同担当教員がいるため支障はない）。 ・教員退職の理由により、「生涯発達看護学（老年）」専任教員等の配置を「教授1」から「講師1」に変更。 ・教員退職の理由により、「生涯発達看護学（老年概論）」専任教員等の配置を「教授1」から「講師1」に変更。 ・教員退職の理由により、「健康生活看護学（老年援助）」専任教員等の配置を「教授1」から「講師1」に変更。 ・教員退職の理由により、「健康生活看護学実習（老年）1」専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更（共同担当教員がいるため支障はない）。 ・教員退職の理由により、「健康生活看護学実習（老年）2」専任教員等の配置を「教授2」から「教授1」に変更。 ・教員補充の理由により、「健康生活看護学実習（老年）2」専任教員等の配置を「講師1」から「講師2」に変更。 ・教員補充の理由により、「健康生活看護学（小児援助）」専任教員の配置を「助教1」から「助教2」に変更。 ・教員補充の理由により、「健康生活看護学実習（小児）」専任教員の配置を「助教1」から「助教2」に変更。 ・教員退職の理由により、「健康生活看護学（精神概論）1」専任教員の配置を「講師1」から「講師0」に変更。 ・教員補充の理由により、「健康生活看護学（精神概論）1」専任教員の配置を「教授0」から「教授1」に変更。 ・教員補充の理由により、「健康生活看護学（精神概論）2」専任教員の配置を「教授0」から「教授1」に変更。 ・教員補充の理由により、「健康生活看護学（精神援助）」専任教員の配置を「教授0」から「教授1」に変更。 ・教員補充の理由により、「健康生活看護学実習（精神）」専任教員の配置を「教授0」から「教授1」に変更。 ・教員補充の理由により、「地域養生看護学実習（在宅）」専任教員の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。 ・教員補充の理由により、「地域養生看護学実習（在宅）」専任教員の配置を「助教0」から「助教1」に変更。 ・教員補充の理由により、「チーム医療」専任教員の配置を「教授0」から「教授1」に変更。 ・教員補充の理由により、「看護学シミュレーション」専任教員の配置を「教授2」から「教授3」に変更。 ・教員補充の理由により、「看護学シミュレーション」専任教員の配置を「准教授1」から「教授2」に変更。 ・教員補充の理由により、「災害看護」専任教員の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。 ・教員補充の理由により、「災害看護」専任教員の配置を「講師0」から「講師1」に変更。 ・教員補充の理由により、「災害看護」専任教員の配置を「助教0」から「助教1」に変更。 ・教員補充の理由により、「災害看護演習」専任教員の配置を「准教授0」から「准教授2」に変更。 ・教員補充の理由により、「災害看護演習」専任教員の配置を「助教0」から「助教1」に変更。 ・教員補充の理由により、「看護援助技術レファレンス」専任教員の配置を「教授1」から「教授2」に変更。 ・教員補充の理由により、「看護援助技術レファレンス」専任教員の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。 ・教員補充の理由により、「看護援助技術レファレンス」専任教員の配置を「講師4」から「講師5」に変更。 ・教員退職の理由により、「看護援助技術レファレンス」専任教員の配置を、平成30年度（追加事項）「助教5」から「助教3」。 ・教員退職の理由により、「看護援助技術レファレンス」専任教員の配置を、令和元年度（追加事項）「助教3」から「助教0」。 ・教員補充の理由により、「看護援助技術レファレンス」専任教員の配置を「助教0」から「助教2」に変更。 ・教員補充の理由により、「看護学統合演習」専任教員の配置を「教授2」から「教授3」に変更。 ・教員補充の理由により、「看護学統合演習」専任教員の配置を「准教授1」から「准教授3」に変更。 ・教員補充の理由により、「看護学統合演習」専任教員の配置を「助教2」から「助教3」に変更。 ・教員補充の理由により、「卒業研究」専任教員の配置を「准教授2」から「准教授4」に変更。 ・教員補充の理由により、「卒業研究」専任教員の配置を「講師6」から「講師7」に変更。 ・教員補充の理由により、「卒業研究」専任教員の配置を「助教0」から「助教1」に変更。 ・教員補充の理由により、「緩和ケア」専任教員の配置を「教授1」から「教授2」に変更。 ・「自然科学のあゆみ」の兼任・兼担の配置を「兼任・兼担3」から「兼任・兼担1」。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教員補充の理由により、「公衆衛生看護学概論」専任教員の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。 ・教員補充の理由により、「学校保健・産業保健」専任教員の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。 ・教員補充の理由により、「公衆衛生看護方法論1」専任教員の配置を「准教授0」から「准教授2」に変更。 ・教員補充の理由により、「公衆衛生看護方法論1」専任教員の配置を「講師1」から「講師0」に変更。 ・教員補充の理由により、「公衆衛生看護方法論2」専任教員の配置を「准教授0」から「准教授2」に変更。 ・教員補充の理由により、「公衆衛生看護活動論」専任教員の配置を「准教授0」から「准教授2」に変更。 ・教員退職の理由により、「公衆衛生看護活動論」専任教員の配置を「講師1」から「講師0」に変更。 ・教員補充の理由により、「公衆衛生看護管理論」専任教員の配置を「准教授0」から「准教授1」に変更。 ・教員補充の理由により、「公衆衛生看護学実習A」専任教員の配置を「准教授0」から「准教授2」に変更。 ・教員退職の理由により、「公衆衛生看護学実習A」専任教員の配置を「講師1」から「講師0」に変更。 ・教員補充の理由により、「公衆衛生看護学実習B」専任教員の配置を「准教授0」から「准教授2」に変更。 ・教員退職の理由により、「公衆衛生看護学実習B」専任教員の配置を「講師1」から「講師0」に変更。
---	---

(注) ・ 2(1)一① 授業科目表に記入された各年度における変更内容（配当年次の変更、専任教員等の配置の変更、授業科目名の変更、新規科目の追加など）を箇条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
 ・ 変更内容には、授業科目の未開講や廃止については記入しないでください。
 ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 授業科目数

設置時の計画				変更状況				備考
必修	選択	自由	計(A)	必修	選択	自由	計	
75 科目	33 科目	8 科目	116 科目	— 科目 [—]	— 科目 [—]	— 科目 [—]	— 科目 [—]	

(注) ・ 未開講科目も含めた教育課程上の授業科目数を記入するとともに、[]内に、設置時の計画からの増減を記入してください。（記入例：1科目減の場合：△1）

(3) 未開講科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	未開講の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 配当年次に達しているにも関わらず、何らかの理由で未開講となっている授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 履修希望者がいなかったために未開講となった科目については記入しないでください。
 - ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」と修正して記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門、総合」と修正して記入してください。

(4) 廃止科目

番号	授業科目名	単位数	配当年次	一般・専門	必修・選択	廃止の理由、代替措置の有無
1	該当なし					
2						
3						

- (注) ・ 設置時の計画にあり、何らかの理由で廃止（教育課程から削除）した授業科目について記入してください。なお、理由については可能な限り具体的に記入してください。
- ・ 教職大学院の場合は、「一般・専門」を「共通・実習・その他」として記入してください。
 - ・ 専門職大学等の場合は、「一般・専門」を「基礎・展開・職業専門、総合」と修正して記入してください。

(5) 授業科目を未開講又は廃止としたことに係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

該当なし

- (注) ・ 授業科目を未開講又は廃止としたことによる学生の履修への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

(6) 「設置時の計画の授業科目数の計」に対する「未開講科目と廃止科目の計」の割合

$$\frac{\text{未開講科目(3)と廃止科目(4)の計}}{\text{設置時の計画の授業科目数の計(A)}} = \frac{0}{116} = \boxed{}\%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。
- ・ 「未開講科目と廃止科目の計」が、「(3)未開講科目」と「(4)廃止科目」の合計数となるように留意してください。

3 施設・設備の整備状況, 経費

区 分		内 容				備 考		
(1) 校地等	区 分	専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計			
	校舎敷地	123,105.00㎡ 145,860㎡	0㎡	0㎡	123,105.00㎡ 145,860㎡	大学全体 平成30年4月 用途変更のため(30)		
	運動場用地	23,800.00㎡ 53,000㎡	0㎡	0㎡	23,800.00㎡ 53,000㎡	平成29年4月 用途変更のため(29)		
	小 計	146,905.00㎡ 198,860㎡	0㎡	0㎡	146,905.00㎡ 198,860㎡			
	そ の 他	309,448.86㎡ 264,767㎡	0㎡	0㎡	309,448.86㎡ 264,767㎡			
	合 計	456,353.86㎡ 463,627㎡	0㎡	0㎡	456,353.86㎡ 463,627㎡			
(2) 校 舎		専 用	共 用	共用する他の学校等の専用	計	大学全体 令和2年4月 心理学部設置に伴う用途変更のため(2)		
		44,822.15㎡ 44,165.15㎡ 44,652㎡ (44,822.15㎡) (44,165.15㎡) (44,652㎡)	0㎡ (0 ㎡)	0㎡ (0 ㎡)	44,822.15㎡ 44,165.15㎡ 44,652㎡ (44,822.15㎡) (44,165.15㎡) (44,652㎡)	平成30年4月 用途変更のため(30)		
(3) 教 室 等	講 義 室		演 習 室	実験実習室	情報処理学習施設	語学学習施設	大学全体 令和2年4月 心理学部及び生命理工学研究科設置に伴う用途変更のため(2)	
	41 室 40 室	32 室 10 室 31 室	124 室 121 室 81 室 105 室	3 室 (補助職員 1人)	— 室 (補助職員 人)	平成30年4月 用途変更のため(30) 平成29年4月 用途変更のため(29)		
(4) 専任教員研究室	新設学部等の名称			室 数		平成30年4月 用途変更のため(30)		
	看護学部 看護学科			32 室 33 室				
(5) 図書・設備	新設学部等の名称	図 書 〔うち外国書〕 冊	学術雑誌 〔うち外国書〕 種	電子ジャーナル 〔うち外国書〕 〔うち外国書〕	視聴覚資料 点	機械・器具 点	標 本 点	平成31年4月 図書・機械・器具設置(元)
	看護学部	3,000 [400] 3,375 [405] (3,000 [400]) (3,261 [343]) (2,665 [285])	29 [10] 22 [-5] (29 [10]) (22 [-5])	5 [5] (5 [5]) (0 [-0])	75 (75) (124) (50)	725 (725) (683) (672)	19 29 19 (30) (19)	平成30年4月 図書・機械・器具設置(30) 平成29年4月 機械・器具設置(29)
	計	3,000 [400] 3,375 [405] (3,000 [400]) (3,261 [343]) (2,665 [285])	29 [10] 22 [-5] (29 [10]) (22 [-5])	5 [5] (5 [5]) (0 [-0])	75 (75) (124) (50)	725 (725) (683) (672)	19 29 19 (30) (19)	
		面 積	閲覧座席数	収 納 可 能 冊 数				
(6) 図 書 館	5,052.81㎡ 5,109.81㎡ 4,917㎡	448 438 442	288,000 288,500		大学全体 平成31年4月 用途変更のため(元) 平成30年4月 用途変更のため(30)			
(7) 体 育 館	面 積	体育館以外のスポーツ施設の概要				大学全体		
	4,513.16㎡	野球場1面、テニスコート10面						
(8) 経費の見積り及び維持方法の概要	区 分	開設年度	完成年度	区 分	開設前年度	開設年度	完成年度	
		教員1人当り研究費等	150千円	150千円	図書購入費	15,560千円	9,935千円	
	共同研究費等	5,000千円	5,000千円	設備購入費	86,116千円	0千円	0千円	
	学生1人当り納付金	第1年次	第2年次	第3年次	第4年次	第5年次	第6年次	
	1,800千円	1,500千円	1,500千円	1,500千円	— 千円	— 千円		
学生納付金以外の維持方法の概要		手数料収入、資産運用収入及び私立大学等経常経費補助金 等						

(注) ・ 設置時の計画を、申請書の様式第2号(その1の1)に準じて作成してください。(複数のキャンパスに分かれている場合、複数の様式に分ける必要はありません。なお、「(1)校地等」及び「(2)校舎」は大学全体の数字を、その他の項目はAC対象学部等の数値を記入してください。)

- ・ 運動場用地が校舎敷地と別地にある場合は、その旨(所要時間・距離等)を「備考」に記入してください。
- ・ 「(5)図書・設備」については、上段に完成年度の予定数値を、下段には令和2年5月1日現在の数値を記入してください。
- ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに変更のあったものについては、変更部分を見え消し修正するとともに、その理由及び報告年度「(2)」を「備考」に赤字で記入してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、見え消しのまま黒字にしてください。

- ・ 校舎等建物の計画の変更（校舎又は体育館の総面積の減少、建築計画の遅延）がある場合には、「建築等設置計画変更書」を併せて提出してください。
なお、昨年度の報告において赤字で見え消した部分については、黒字で記入してください。
- ・ 国立大学については「（８）経費の見積り及び維持方法の概要」は記載不要です。

4. 既設大学等の状況

大学の名称	医療創生大学										備考
既設学部等の名称	修業 年限	入学 定員	編入学 定員	収容 定員	学位又 は称号	平均入学 定員 超過率	令和2年度 入学定員 超過率	定員変更 年度 (AC期間の 学科のみ)	開設 年度	所 在 地	
	年	人	年次 人	人		倍	倍	年度	年度	年度	
(学部)											
科学技術学部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
科学技術学科	4	—	—	—	学士 (理工学)	—	—	—	平成22年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	平成27年4月より 学生募集停止 (科学技術学科)
人文学部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
表現文化学科	4	—	—	—	学士 (文学)	—	—	—	平成17年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	平成27年4月より 学生募集停止
心理学科	4	—	—	—	学士 (心理学)	—	—	—	平成13年度	同上	(表現文化学科・ 心理学科)
薬学部	6	90	—	540	—	0.83	0.54	—	平成19年度	—	
薬学科	6	90	—	540	学士 (薬学)	0.83	0.54	—	平成19年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	平成23年4月より 入学定員変更 (薬学科150→90)
教養学部	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
地域教養学科	4	—	—	—	学士 (教養)	—	—	—	平成27年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	平成31年4月より 学生募集停止
看護学部	4	80	—	320	—	1.06	0.95	—	平成29年度	—	
看護学科	4	80	—	320	学士 (看護学)	1.06	0.95	—	平成29年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	
健康医療科学部	4	100	—	400	—	0.93	1.07	—	平成31年度	—	
作業療法学科	4	40	—	160	学士 (作業療法学)	0.72	0.95	—	平成31年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	
理学療法学科	4	60	—	240	学士 (理学療法学)	1.07	1.15	—	平成31年度	同上	
心理学部	4	60	—	240	—	0.56	0.56	—	令和2年度	—	
臨床心理学科	4	60	—	240	学士 (心理学)	0.56	0.56	—	令和2年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	
大学全体	—	330	—	1,500	—	—	—	—	—	—	

既設学部等の名称	修業年限	入学定員	編入学定員	収容定員	学位又は称号	平均入学定員超過率	令和2年度入学定員超過率	定員変更年度 (AC期間の 学科のみ)	開設年度	所在地	
(大学院)											
理工学研究科											
(修士課程)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
物質理学専攻	2	—	—	—	修士 (理学)	—	—	—	平成4年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	令和2年4月より 学生募集停止 (物質理学専攻・ 物理工学専攻)
物理工学専攻	2	—	—	—	修士 (工学)	—	—	—	平成4年度	同上	
(博士課程)	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
物質理工学専攻	3	—	—	—	博士 (理工学)	—	—	—	平成6年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	令和2年4月より 学生募集停止
生命理工学研究科											
(修士課程)	2	5	—	10	—	0.60	0.60	—	令和2年度	—	
生命理工学専攻	2	5	—	10	修士 (生命理工学)	0.60	0.60	—	令和2年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	
(博士後期課程)	3	2	—	6	—	1.50	1.50	—	令和2年度	—	
生命理工学専攻	3	2	—	6	博士 (生命理工学)	1.50	1.50	—	令和2年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	
人文学研究科											
(修士課程)	2	10	—	20	—	0.15	0.15	—	平成4年度	—	
日本文学専攻	—	—	—	—	修士 (日本文学)	—	—	—	平成4年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	令和2年4月より 学生募集停止 (日本文学専攻・ 英米文学専攻・ 社会学専攻)
英米文学専攻	—	—	—	—	修士 (英米文学)	—	—	—	平成7年度	同上	
社会学専攻	—	—	—	—	修士 (社会学)	—	—	—	平成4年度	同上	
臨床心理学専攻	2	10	—	20	修士 (臨床心理学)	0.15	0.15	—	平成17年度	同上	
(博士課程)	3	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
日本文学専攻	3	—	—	—	博士 (日本文学)	—	—	—	平成6年度	福島県いわき市 中央台飯野5-5-1	令和2年4月より 学生募集停止
大学院全体	—	17	—	36	—	—	—	—	—	—	

- (注) ・本調査の対象となっている大学等の設置者が既に設置している全ての大学(大学院含む)、短期大学及び高等専門学校についてそれぞれの学校ごとに、報告年度の5月1日現在の状況を記入してください。
(専攻科及び別科を除く)。
- ・学部の学科または研究科の専攻等、「入学定員を定めている組織」ごとに全ての組織を記入してください。
※「入学定員を定めている組織」ごとには、課程認定等によりコース・専攻に入学定員を定めている場合を含めず。履修上の区分としてコース・専攻を設けている場合は含めません。
 - ・本年度AC対象となる学部等については、必ず下線を引いてください。
 - ・「平均入学定員超過率」には、報告年度(令和2年度)から起算した修業年限に相当する期間の入学定員超過率の平均を記載してください。
 - ・「備考」の欄については、学年進行中の入学定員の増減や学生募集停止など、収容定員に影響のある情報を記入してください。

5 教員組織の状況

<看護学部 看護学科>

(1) ① 担当教員表

【認可時又は届出時】

【平成29年度】			【平成30年度】			【令和元年度】			【令和2年度】		
専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	教授	久米 美代子 (59) <平成29年4月> 博士(情報学)	専	教授	久米 美代子 (59) <平成29年4月> 博士(情報学)	専	教授	久米 美代子 (59) <平成29年4月> 博士(情報学)	専	教授	久米 美代子 (72) <平成29年4月> 博士(情報学)
		フレッシュアップセミナー 看護実践基礎学Ⅰ(看護学原論) 生涯発達看護学(母性) 健康生活看護学(母性概論) 健康生活看護学(母性援助) 健康生活看護学実習(母性) 看護倫理 卒業研究			フレッシュアップセミナー 看護実践基礎学Ⅰ(看護学原論) 生涯発達看護学(母性) 健康生活看護学(母性概論) 健康生活看護学(母性援助) 健康生活看護学実習(母性) 看護倫理 卒業研究			フレッシュアップセミナー 看護実践基礎学Ⅰ(看護学原論) 生涯発達看護学(母性) 健康生活看護学(母性概論) 健康生活看護学(母性援助) 健康生活看護学実習(母性) 看護倫理 卒業研究			フレッシュアップセミナー 看護実践基礎学Ⅰ(看護学原論) 生涯発達看護学(母性) 健康生活看護学(母性概論) 健康生活看護学(母性援助) 健康生活看護学実習(母性) 看護倫理 卒業研究
専	教授	林 正幸 (67) <平成29年4月> 医学博士	専	教授	林 正幸 (67) <平成29年4月> 医学博士	専	教授	林 正幸 (68) <平成29年4月> 医学博士			
		フレッシュアップセミナー 公衆衛生学 保健統計学 疫学 災害看護演習 卒業研究			フレッシュアップセミナー 公衆衛生学 保健統計学 疫学 災害看護演習 卒業研究			公衆衛生学 保健統計学 疫学 災害看護演習 卒業研究			
専	教授	鹿兒島 正聖 (72) <平成29年4月> 薬学博士	専	教授	鹿兒島 正聖 (72) <平成29年4月> 薬学博士	専	教授	鹿兒島 正聖 (73) <平成29年4月> 薬学博士	専	教授	鹿兒島 正聖 (74) <平成29年4月> 薬学博士
		フレッシュアップセミナー 人体の構造と機能1 人体の構造と機能2 薬理学 卒業研究			フレッシュアップセミナー 人体の構造と機能1 人体の構造と機能2 薬理学 卒業研究			フレッシュアップセミナー 人体の構造と機能1 人体の構造と機能2 薬理学 卒業研究			フレッシュアップセミナー 人体の構造と機能1 人体の構造と機能2 薬理学 卒業研究
専	教授	臼井 千津 (65) <平成29年4月> 文学修士	専	教授	臼井 千津 (65) <平成29年4月> 文学修士						
		生涯発達看護学(成人) 健康生活看護学(成人概論) 健康生活看護学(成人・急性期) 健康生活看護学(成人・周手術期) 健康生活看護学実習(成人) 地域養生看護学(在宅概論) 地域養生看護学(在宅援助) 災害看護 災害看護演習 訪問看護マネジメント 看護学シミュレーション 卒業研究			生涯発達看護学(成人) 健康生活看護学(成人概論) 健康生活看護学(成人・急性期) 健康生活看護学(成人・周手術期) 健康生活看護学実習(成人) 地域養生看護学(在宅概論) 地域養生看護学(在宅援助) 災害看護 災害看護演習 訪問看護マネジメント 看護学シミュレーション 卒業研究						
専	教	古地 順子 (61) <平成29年4月> 博士(看護学)	専	教	古地 順子 (61) <平成29年4月> 博士(看護学)						
		看護実践基礎学Ⅰ(看護学原論) 看護実践基礎学Ⅱ(コミュニケーション) 生涯発達看護学(成人) 健康生活看護学(成人概論) 健康生活看護学(成人・慢性期) 健康生活看護学(成人・回復終末期) 健康生活看護学実習(成人) リハビリテーション看護論 卒業研究			看護実践基礎学Ⅰ(看護学原論) 看護実践基礎学Ⅱ(コミュニケーション) 生涯発達看護学(成人) 健康生活看護学(成人概論) 健康生活看護学(成人・慢性期) 健康生活看護学(成人・回復終末期) 健康生活看護学実習(成人) リハビリテーション看護論 卒業研究						
専	教授	橋本 知子 (67) <平成29年4月> 博士(医学)	専	教授	橋本 知子 (67) <平成29年4月> 博士(医学)	専	教授	橋本 知子 (68) <平成29年4月> 博士(医学)	専	教授	橋本 知子 (69) <平成29年4月> 博士(医学)
		フレッシュアップセミナー 生涯発達看護学(老年) 健康生活看護学(老年概論) 健康生活看護学(老年援助) 健康生活看護学実習(老年) 1 健康生活看護学実習(老年) 2 卒業研究			フレッシュアップセミナー 生涯発達看護学(老年) 健康生活看護学(老年概論) 健康生活看護学(老年援助) 健康生活看護学実習(老年) 1 健康生活看護学実習(老年) 2 卒業研究			フレッシュアップセミナー 生涯発達看護学(老年) 健康生活看護学(老年概論) 健康生活看護学(老年援助) 健康生活看護学実習(老年) 1 健康生活看護学実習(老年) 2 卒業研究			フレッシュアップセミナー 生涯発達看護学(老年) 健康生活看護学(老年概論) 健康生活看護学(老年援助) 健康生活看護学実習(老年) 1 健康生活看護学実習(老年) 2 卒業研究
専	教授	藤岡 寛 (42) <平成29年4月> 博士(保健学)									
		生涯発達看護学(小児) 健康生活看護学(小児概論) 健康生活看護学(小児援助) 健康生活看護学実習(小児) 看護学シミュレーション 看護学統合実習 看護援助技術レファレンス 卒業研究									

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等			
専	教授	レンデンマン美智子 (54) <平成29年4月> Doctor of Philosophy in Nursing Science 担当授業科目名 フレッシュヤーズセミナー 生涯発達看護学(小児) 健康生活看護学(小児援助) 健康生活看護学実習(小児) 国際看護活動論 看護学シミュレーション 看護学統合実習 卒業研究	専	教授	レンデンマン美智子 (54) <平成29年4月> Doctor of Philosophy in Nursing Science 担当授業科目名 フレッシュヤーズセミナー 生涯発達看護学(小児) 健康生活看護学(小児援助) 健康生活看護学実習(小児) 国際看護活動論 看護学シミュレーション 看護学統合実習 卒業研究	専	教授	レンデンマン美智子 (55) <平成29年4月> Doctor of Philosophy in Nursing Science 担当授業科目名 フレッシュヤーズセミナー 生涯発達看護学(小児) 健康生活看護学(小児援助) 健康生活看護学実習(小児) 国際看護活動論 看護学シミュレーション 看護学統合実習 卒業研究 健康生活看護学(小児援助)	専	教授	レンデンマン美智子 (57) <平成29年4月> Doctor of Philosophy in Nursing Science 担当授業科目名 フレッシュヤーズセミナー 生涯発達看護学(小児) 健康生活看護学(小児援助) 健康生活看護学実習(小児) 国際看護活動論 看護学シミュレーション 看護学統合実習 卒業研究 健康生活看護学(小児援助)	専	教授	レンデンマン美智子 (58) <平成29年4月> Doctor of Philosophy in Nursing Science 担当授業科目名 フレッシュヤーズセミナー 生涯発達看護学(小児) 健康生活看護学(小児援助) 健康生活看護学実習(小児) 国際看護活動論 看護学シミュレーション 看護学統合実習 卒業研究 健康生活看護学(小児援助)
専	教授	荒井 春生 (54) <平成29年4月> 修士(臨床心理学) 看護実践基礎学Ⅰ(看護学原論) 看護実践基礎学Ⅱ(コミュニケーション) 看護実践基礎学Ⅲ(アセスメント技術) 看護実践基礎学Ⅳ(生活援助技術) 看護実践基礎学Ⅴ(診療補助技術) 看護実践基礎学Ⅵ(看護過程) 健康生活看護学(精神概論)1 健康生活看護学(精神概論)2 健康生活看護学(精神援助) 健康生活看護学実習(精神) チーム医療 緩和ケア 卒業研究	専	教授	荒井 春生 (54) <平成29年4月> 修士(臨床心理学) 看護実践基礎学Ⅰ(看護学原論) 看護実践基礎学Ⅱ(コミュニケーション) 看護実践基礎学Ⅲ(アセスメント技術) 看護実践基礎学Ⅳ(生活援助技術) 看護実践基礎学Ⅴ(診療補助技術) 看護実践基礎学Ⅵ(看護過程) 健康生活看護学(精神概論)1 健康生活看護学(精神概論)2 健康生活看護学(精神援助) 健康生活看護学実習(精神) チーム医療 緩和ケア 卒業研究									
専	教授	小林 紀明 (52) <平成29年4月> 修士(社会学) フレッシュヤーズセミナー 健康生活看護学実習(老年)1 健康生活看護学実習(老年)2 地域養生看護学(在宅概論) 地域養生看護学(在宅援助) 地域養生看護学実習(在宅) 看護学シミュレーション 看護学統合実習 看護援助技術レファレンス 卒業研究	専	教授	小林 紀明 (52) <平成29年4月> 修士(社会学) フレッシュヤーズセミナー 健康生活看護学実習(老年)1 健康生活看護学実習(老年)2 地域養生看護学(在宅概論) 地域養生看護学(在宅援助) 地域養生看護学実習(在宅) 看護学シミュレーション 看護学統合実習 看護援助技術レファレンス 卒業研究	専	教授	小林 紀明 (53) <平成29年4月> 修士(社会学) フレッシュヤーズセミナー 健康生活看護学実習(老年)1 健康生活看護学実習(老年)2 地域養生看護学(在宅概論) 地域養生看護学(在宅援助) 地域養生看護学実習(在宅) 看護学シミュレーション 看護学統合実習 看護援助技術レファレンス 卒業研究						
専	教授	スーディ神崎和代 (65) <平成29年4月> 博士(ヒューマンケア科学) 健康生活看護学実習(老年)1 健康生活看護学実習(老年)2 地域養生看護学(在宅概論) 地域養生看護学(在宅援助) 地域養生看護学実習(在宅) 看護レジメ 国際看護活動論 訪問看護マネジメント 緩和ケア 卒業研究	専	教授	スーディ神崎和代 (65) <平成29年4月> 博士(ヒューマンケア科学) 健康生活看護学実習(老年)1 健康生活看護学実習(老年)2 地域養生看護学(在宅概論) 地域養生看護学(在宅援助) 地域養生看護学実習(在宅) 看護レジメ 国際看護活動論 訪問看護マネジメント 緩和ケア 卒業研究	専	教授	スーディ神崎和代 (66) <平成29年4月> 博士(ヒューマンケア科学) 健康生活看護学実習(老年)1 健康生活看護学実習(老年)2 地域養生看護学(在宅概論) 地域養生看護学(在宅援助) 地域養生看護学実習(在宅) 看護レジメ 国際看護活動論 訪問看護マネジメント 緩和ケア 卒業研究	専	教授	スーディ神崎和代 (68) <平成29年4月> 博士(ヒューマンケア科学) 健康生活看護学実習(老年)1 健康生活看護学実習(老年)2 地域養生看護学(在宅概論) 地域養生看護学(在宅援助) 地域養生看護学実習(在宅) 看護レジメ 国際看護活動論 訪問看護マネジメント 緩和ケア 卒業研究			
専	教授	黒田 眞理子 (66) <平成29年4月> 博士(保健学) 看護学シミュレーション 看護学統合実習 卒業研究 公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護学方法論1 公衆衛生看護学方法論2 公衆衛生看護学活動論 学校保健・産業保健 公衆衛生看護管理論 公衆衛生看護学実習A 公衆衛生看護学実習B	専	教授	黒田 眞理子 (66) <平成29年4月> 博士(保健学) 看護学シミュレーション 看護学統合実習 卒業研究 公衆衛生看護学概論 公衆衛生看護学方法論1 公衆衛生看護学方法論2 公衆衛生看護学活動論 学校保健・産業保健 公衆衛生看護管理論 公衆衛生看護学実習A 公衆衛生看護学実習B									
						専	教授	大瀧 昇 (52) <平成31年1月> 修士(保健医療学) 看護実践基礎学Ⅰ(看護学原論) 看護実践基礎学Ⅱ(コミュニケーション) 看護実践基礎学Ⅲ(アセスメント技術) 看護実践基礎学Ⅳ(生活援助技術) 看護実践基礎学Ⅴ(診療補助技術) 看護実践基礎学Ⅵ(看護過程) 看護実践基礎学実習(基礎)1 看護実践基礎学実習(基礎)2 看護研究 リハビリテーション看護論 看護学シミュレーション 看護学統合実習 看護援助技術レファレンス	専	教授	大瀧 昇 (53) <平成31年1月> 修士(保健医療学) 看護実践基礎学Ⅰ(看護学原論) 看護実践基礎学Ⅱ(コミュニケーション) 看護実践基礎学Ⅲ(アセスメント技術) 看護実践基礎学Ⅳ(生活援助技術) 看護実践基礎学Ⅴ(診療補助技術) 看護実践基礎学Ⅵ(看護過程) 看護実践基礎学実習(基礎)1 看護実践基礎学実習(基礎)2 看護研究 リハビリテーション看護論 看護学シミュレーション 看護学統合実習 看護援助技術レファレンス	専	教授	大瀧 昇 (54) <平成31年1月> 修士(保健医療学) 看護実践基礎学Ⅰ(看護学原論) 看護実践基礎学Ⅱ(コミュニケーション) 看護実践基礎学Ⅲ(アセスメント技術) 看護実践基礎学Ⅳ(生活援助技術) 看護実践基礎学Ⅴ(診療補助技術) 看護実践基礎学Ⅵ(看護過程) 看護実践基礎学実習(基礎)1 看護実践基礎学実習(基礎)2 看護研究 リハビリテーション看護論 看護学シミュレーション 看護学統合実習 看護援助技術レファレンス

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	准教授	富岡 節子 (60) <平成29年4月> 博士(薬学)	専	准教授	富岡 節子 (60) <平成29年4月> 博士(薬学)	専	准教授	富岡 節子 (61) <平成29年4月> 博士(薬学)	専	准教授	富岡 節子 (62) <平成29年4月> 博士(薬学)	専	准教授	富岡 節子 (63) <平成29年4月> 博士(薬学)
		フレッシュヤーズセミナー 生化学 人間栄養学 薬理学 チーム医療 緩和ケア 卒業研究			フレッシュヤーズセミナー 生化学 人間栄養学 薬理学 チーム医療 緩和ケア 卒業研究			フレッシュヤーズセミナー 生化学 人間栄養学 薬理学 チーム医療 緩和ケア 卒業研究			フレッシュヤーズセミナー 生化学 人間栄養学 薬理学 チーム医療 緩和ケア 卒業研究			フレッシュヤーズセミナー 生化学 人間栄養学 薬理学 チーム医療 緩和ケア 卒業研究
専	准教授	山邊 素子 (53) <平成29年4月> 博士(医学)	専	准教授	山邊 素子 (53) <平成29年4月> 博士(医学)									
		看護実践基礎学Ⅰ(看護学原論) 看護実践基礎学Ⅱ(コミュニケーション) 看護実践基礎学Ⅲ(アセスメント技術) 看護実践基礎学Ⅳ(生活援助技術) 看護実践基礎学Ⅴ(診療補助技術) 看護実践基礎学Ⅵ(看護過程) 看護実践基礎学実習(基礎)1 看護実践基礎学実習(基礎)2 看護研究 卒業研究			看護実践基礎学Ⅰ(看護学原論) 看護実践基礎学Ⅱ(コミュニケーション) 看護実践基礎学Ⅲ(アセスメント技術) 看護実践基礎学Ⅳ(生活援助技術) 看護実践基礎学Ⅴ(診療補助技術) 看護実践基礎学Ⅵ(看護過程) 看護実践基礎学実習(基礎)1 看護実践基礎学実習(基礎)2 看護研究 卒業研究									
専	准教授	狩谷 穂子 (54) <平成29年4月> 修士(健康科学)	専	准教授	狩谷 穂子 (54) <平成29年4月> 修士(健康科学)	専	准教授	狩谷 穂子 (55) <平成29年4月> 修士(健康科学)	専	准教授	狩谷 穂子 (56) <平成29年4月> 修士(健康科学)	専	准教授	狩谷 穂子 (57) <平成29年4月> 修士(健康科学)
		看護実践基礎学Ⅳ(生活援助技術) 看護実践基礎学Ⅴ(診療補助技術) 看護実践基礎学実習(基礎)1 看護実践基礎学実習(基礎)2 健康生活看護学(成人・慢性期) 健康生活看護学(成人・回復終末期) 健康生活看護学実習(成人) 看護学シミュレーション 看護学統合実習 卒業研究			看護実践基礎学Ⅳ(生活援助技術) 看護実践基礎学Ⅴ(診療補助技術) 看護実践基礎学実習(基礎)1 看護実践基礎学実習(基礎)2 健康生活看護学(成人・慢性期) 健康生活看護学(成人・回復終末期) 健康生活看護学実習(成人) 看護学シミュレーション 看護学統合実習 卒業研究			看護実践基礎学Ⅳ(生活援助技術) 看護実践基礎学Ⅴ(診療補助技術) 看護実践基礎学実習(基礎)1 看護実践基礎学実習(基礎)2 健康生活看護学(成人・慢性期) 健康生活看護学(成人・回復終末期) 健康生活看護学実習(成人) 看護学シミュレーション 看護学統合実習 卒業研究 生涯発達看護学(成人) 健康生活看護学(成人) 健康生活看護学(成人・急性期) 健康生活看護学(成人・慢性期) 健康生活看護学(成人・回復終末期) 看護実践基礎学Ⅰ(看護学原論) 看護実践基礎学Ⅱ(コミュニケーション)			看護実践基礎学Ⅳ(生活援助技術) 看護実践基礎学Ⅴ(診療補助技術) 看護実践基礎学実習(基礎)1 看護実践基礎学実習(基礎)2 健康生活看護学(成人・慢性期) 健康生活看護学(成人・回復終末期) 健康生活看護学実習(成人) 看護学シミュレーション 看護学統合実習 卒業研究 生涯発達看護学(成人) 健康生活看護学(成人) 健康生活看護学(成人・急性期) 健康生活看護学(成人・慢性期) 健康生活看護学(成人・回復終末期) 看護実践基礎学Ⅰ(看護学原論) 看護実践基礎学Ⅱ(コミュニケーション)			看護実践基礎学Ⅳ(生活援助技術) 看護実践基礎学Ⅴ(診療補助技術) 看護実践基礎学実習(基礎)1 看護実践基礎学実習(基礎)2 健康生活看護学(成人・慢性期) 健康生活看護学(成人・回復終末期) 健康生活看護学実習(成人) 看護学シミュレーション 看護学統合実習 卒業研究 生涯発達看護学(成人) 健康生活看護学(成人) 健康生活看護学(成人・急性期) 健康生活看護学(成人・慢性期) 健康生活看護学(成人・回復終末期) 看護実践基礎学Ⅰ(看護学原論) 看護実践基礎学Ⅱ(コミュニケーション)
専	准教授	大内 隆 (59) <平成29年4月> 博士(保健学)	専	准教授	大内 隆 (59) <平成29年4月> 博士(保健学)									
		健康生活看護学(老年援助) 健康生活看護学実習(老年)1 健康生活看護学実習(老年)2 看護学シミュレーション 看護学統合実習 看護援助技術レファレンス 卒業研究			健康生活看護学(老年援助) 健康生活看護学実習(老年)1 健康生活看護学実習(老年)2 看護学シミュレーション 看護学統合実習 看護援助技術レファレンス 卒業研究									
専	准教授	福毛 映子 (53) <令和元年0月> 修士(看護学)												
		フレッシュヤーズセミナー 災害看護 災害看護実習 看護学統合実習 公衆衛生看護学概論 学校保健・産業保健 公衆衛生看護学方法論1 公衆衛生看護学方法論2 公衆衛生看護学活動論 公衆衛生看護学管理論 公衆衛生看護学実習A 公衆衛生看護学実習B												
専	准教授	吉田 和樹 (33) <令和2年4月> 博士(医学)												
		フレッシュヤーズセミナー 地域衛生看護学実習(在宅) 看護学シミュレーション 災害看護実習 看護援助技術レファレンス 看護学統合実習 卒業研究 公衆衛生看護学方法論1 公衆衛生看護学方法論2 公衆衛生看護学活動論 公衆衛生看護学実習A 公衆衛生看護学実習B												

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
専	助教	河田 真理子 (56) <平成29年4月> 学士(発達文化)	専	助教	河田 真理子 (56) <平成29年4月> 学士(発達文化)	専	助教	河田 真理子 (57) <平成29年4月> 博士(看護学)	専	助教	河田 真理子 (59) <平成29年4月> 博士(看護学)
		看護実践基礎学実習(基礎)1 看護実践基礎学実習(基礎)2 健康生活看護学実習(母性) 健康生活看護学(小児援助) 健康生活看護学実習(小児) 看護学シミュレーション 看護学統合実習			看護実践基礎学実習(基礎)1 看護実践基礎学実習(基礎)2 健康生活看護学(母性援助) 健康生活看護学実習(母性) 健康生活看護学実習(小児) 看護学シミュレーション 看護学統合実習			看護実践基礎学実習(基礎)1 看護実践基礎学実習(基礎)2 健康生活看護学(母性援助) 健康生活看護学実習(母性) 健康生活看護学実習(小児) 看護学シミュレーション 看護学統合実習			看護実践基礎学実習(基礎)1 看護実践基礎学実習(基礎)2 健康生活看護学(小児援助) 健康生活看護学実習(小児) 看護学シミュレーション 看護学統合実習 看護援助技術レファレンス 地域共生看護学実習(在宅) 卒業研究
専	助教	池田 真由美 (55) <平成29年4月> 修士(助産学)	専	助教	池田 真由美 (55) <平成29年4月> 修士(助産学)	専	助教	池田 真由美 (56) <平成29年4月> 修士(助産学)			
		看護実践基礎学実習(基礎)1 看護実践基礎学実習(基礎)2 健康生活看護学(母性援助) 健康生活看護学実習(母性) 健康生活看護学実習(小児) 看護学シミュレーション 看護学統合実習 看護援助技術レファレンス			看護実践基礎学実習(基礎)1 看護実践基礎学実習(基礎)2 健康生活看護学(母性援助) 健康生活看護学実習(母性) 健康生活看護学実習(小児) 看護学シミュレーション 看護学統合実習 看護援助技術レファレンス			看護実践基礎学実習(基礎)1 看護実践基礎学実習(基礎)2 健康生活看護学(母性援助) 健康生活看護学実習(母性) 健康生活看護学実習(小児) 看護学シミュレーション 看護学統合実習 看護援助技術レファレンス			
専	助教	大河内 敦子 (43) <平成29年4月> 修士(教育学)	専	助教	大河内 敦子 (43) <平成29年4月> 修士(教育学)	専	助教	大河内 敦子 (44) <平成29年4月> 修士(教育学)			
		看護実践基礎学実習(基礎)1 看護実践基礎学実習(基礎)2 健康生活看護学実習(精神) 看護学シミュレーション 看護学統合実習 看護援助技術レファレンス			看護実践基礎学実習(基礎)1 看護実践基礎学実習(基礎)2 健康生活看護学実習(精神) 看護学シミュレーション 看護学統合実習 看護援助技術レファレンス			看護実践基礎学実習(基礎)1 看護実践基礎学実習(基礎)2 健康生活看護学実習(精神) 看護学シミュレーション 看護学統合実習 看護援助技術レファレンス			
兼担	教授	山崎 洋次 (69) <平成29年4月> 医学博士	兼担	教授	山崎 洋次 (69) <平成29年4月> 医学博士						
		疾病治療論1 疾病治療論2 疾病治療論3 放射線と健康支援 緩和ケア			疾病治療論1 疾病治療論2 疾病治療論3 放射線と健康支援 緩和ケア						
兼担	教授	金 容必 (48) <平成29年4月> 薬学博士	兼担	教授	金 容必 (49) <平成29年4月> 薬学博士	兼担	教授	金 容必 (50) <平成29年4月> 薬学博士	兼担	教授	金 容必 (51) <平成29年4月> 薬学博士
		微生物学			微生物学			微生物学			微生物学
兼担	教授	福田 幸夫 (56) <平成30年4月> 文学修士	兼担	教授	福田 幸夫 (56) <平成30年4月> 文学修士	兼担	教授	福田 幸夫 (57) <平成30年4月> 文学修士			
		社会福祉学 保健医療福祉行政論 チーム医療			社会福祉学 保健医療福祉行政論 チーム医療			社会福祉学 保健医療福祉行政論 チーム医療			
兼担	教授	小池 久恵 (58) <平成29年4月> 文学修士	兼担	教授	小池 久恵 (58) <平成29年4月> 文学修士	兼担	教授	小池 久恵 (59) <平成29年4月> 文学修士	兼担	教授	小池 久恵 (60) <平成29年4月> 文学修士
		英語A1 英語A2 英語C1 英語C2			英語A1 英語A2 英語C1 英語C2			英語A1 英語A2 英語C1 英語C2			英語A1 英語A2 英語C1 英語C2
兼担	教授	兼 小楢 (52) <平成29年4月> 文学修士	兼任 講師	兼 小楢 (62) <平成29年4月> 文学修士	兼任 講師	兼 小楢 (63) <平成29年4月> 文学修士					
		中国語1 中国語2 世界の歴史と文化			中国語1 中国語2 世界の歴史と文化			中国語1 中国語2 世界の歴史と文化			
兼担	教授	久興 高之 (63) <平成29年4月> 文学修士	兼担	教授	久興 高之 (63) <平成29年4月> 文学修士	兼担	教授	久興 高之 (64) <平成29年4月> 文学修士	兼担	教授	久興 高之 (65) <平成29年4月> 文学修士
		哲学の世界 倫理学の世界			哲学の世界 倫理学の世界			哲学の世界 倫理学の世界			哲学の世界 倫理学の世界 芸術の世界
兼担	教授	奥村 賢 (63) <平成29年4月> 文学修士	兼担	教授	奥村 賢 (63) <平成29年4月> 文学修士	兼任 講師	奥村 賢 (64) <平成29年4月> 文学修士				
		芸術の世界			芸術の世界			芸術の世界			
兼担	教授	菊池 真弓 (46) <平成29年4月> 修士(社会学)	兼担	教授	菊池 真弓 (46) <平成29年4月> 修士(社会学)	兼担	教授	菊池 真弓 (47) <平成29年4月> 修士(社会学)	兼担	教授	菊池 真弓 (48) <平成29年4月> 修士(社会学)
		社会学入門 ジェンダー論			社会学入門 ジェンダー論			社会学入門 ジェンダー論			社会学入門 ジェンダー論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	教授	林 洋一 (66) <平成29年4月> 文学修士 災害からの復興	兼任	教授	林 洋一 (66) <平成29年4月> 文学修士 災害からの復興	兼任	教授	林 洋一 (67) <平成29年4月> 文学修士 災害からの復興	兼任	教授	林 洋一 (68) <平成29年4月> 文学修士 災害からの復興
兼任	教授	山本 佳子 (59) <平成29年4月> 博士(文学) 災害からの復興	兼任	教授	山本 佳子 (59) <平成29年4月> 博士(文学) 災害からの復興	兼任	教授	山本 佳子 (60) <平成29年4月> 博士(文学) 災害からの復興	兼任	教授	山本 佳子 (61) <平成29年4月> 博士(文学) 災害からの復興
兼任	教授	山口 憲二 (61) <平成29年4月> 修士(社会情報学) 経営学入門	兼任	教授	山口 憲二 (61) <平成29年4月> 修士(社会情報学) 経営学入門	兼任	教授	山口 憲二 (62) <平成29年4月> 修士(社会情報学) 経営学入門	兼任	教授	山口 憲二 (63) <平成29年4月> 修士(社会情報学) 経営学入門 経営学入門 経営学入門
兼任	教授	岩田 惠理 (53) <平成29年4月> 博士(獣医学) 生命の科学	兼任	教授	岩田 惠理 (53) <平成29年4月> 博士(獣医学) 生命の科学						
兼任	教授	梅村 一之 (58) <平成29年4月> 博士(工学) 自然科学のあゆみ	兼任	教授	梅村 一之 (58) <平成29年4月> 博士(工学) 自然科学のあゆみ	兼任	教授	梅村 一之 (59) <平成29年4月> 博士(工学) 自然科学のあゆみ	兼任	教授	梅村 一之 (60) <平成29年4月> 博士(工学) 自然科学のあゆみ
兼任	教授	坂名 敬一 (63) <平成29年4月> 博士(医学) 食品の科学	兼任	教授	坂名 敬一 (63) <平成29年4月> 博士(医学) 食品の科学	兼任	教授	坂名 敬一 (64) <平成29年4月> 博士(医学) 食品の科学	兼任	教授	坂名 敬一 (65) <平成29年4月> 博士(医学) 食品の科学
兼任	教授	中田 芳幸 (59) <平成29年4月> 博士(工学) 自然科学のあゆみ 災害からの復興	兼任	教授	中田 芳幸 (59) <平成29年4月> 博士(工学) 自然科学のあゆみ 災害からの復興						
兼任	教授	村田 亮 (65) <平成29年4月> 医学博士 健康と薬	兼任	教授	村田 亮 (65) <平成29年4月> 医学博士 健康と薬	兼任	教授	村田 亮 (66) <平成29年4月> 医学博士 健康と薬	兼任	教授	村田 亮 (67) <平成29年4月> 医学博士 健康と薬
兼任	教授	五十嵐 幸一 (48) <平成29年4月> 体育学修士 健康の科学 健康・スポーツ1 健康・スポーツ2	兼任	教授	五十嵐 幸一 (48) <平成29年4月> 体育学修士 健康の科学 健康・スポーツ1 健康・スポーツ2	兼任	教授	五十嵐 幸一 (49) <平成29年4月> 体育学修士 健康の科学 健康・スポーツ1 健康・スポーツ2	兼任	教授	五十嵐 幸一 (50) <平成29年4月> 体育学修士 健康の科学 健康・スポーツ1 健康・スポーツ2
						兼任	教授	佐藤 龍典 (53) <平成30年4月> 医学博士 疾病治療論1 疾病治療論2 疾病治療論3 放射線と健康支援 緩和ケア	兼任	教授	佐藤 龍典 (54) <平成30年4月> 医学博士 疾病治療論1 疾病治療論2 疾病治療論3 放射線と健康支援 緩和ケア
						兼任	教授	ティモシー クック (59) <平成30年4月> Ph.D. in Communication Studies 英語A1 英語A2 英語B1 英語B2 英語C1 英語C2	兼任	教授	ティモシー クック (60) <平成30年4月> Ph.D. in Communication Studies 英語A1 英語A2 英語B1 英語B2 英語C1 英語C2
						兼任	教授	大嶋 淳健 (50) <平成30年4月> 修士(学際情報学) 経営学入門			
						兼任	教授	菊池 達士 (58) <平成30年4月> 博士(医学) 生命の科学	兼任	教授	菊池 達士 (59) <平成30年4月> 博士(医学) 生命の科学
						兼任	教授	片桐 拓也 (57) <平成30年4月> 薬学博士 生命の科学	兼任	教授	片桐 拓也 (58) <平成30年4月> 薬学博士 生命の科学
						兼任	教授	奈良 武司 (52) <平成30年4月> 博士(医学) 生命の科学	兼任	教授	奈良 武司 (53) <平成30年4月> 博士(医学) 生命の科学
									兼任	教授	鎌田 真理子 (50) <平成31年4月> 社会学修士 社会福祉学 保健医療福祉行政論 チーム医療
兼任	准教授	大島 典子 (48) <平成29年4月> 修士(人間科学) 臨床心理学 コンサルテーション論	兼任	准教授	大島 典子 (48) <平成29年4月> 修士(人間科学) 臨床心理学 コンサルテーション論	兼任	准教授	大島 典子 (49) <平成29年4月> 修士(人間科学) 臨床心理学 コンサルテーション論	兼任	准教授	大島 典子 (50) <平成29年4月> 修士(人間科学) 臨床心理学 コンサルテーション論

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	准教授	西村 康平 (39) <平成29年4月> 博士(学術)	兼任	准教授	西村 康平 (39) <平成29年4月> 博士(学術)	兼任	准教授	西村 康平 (40) <平成29年4月> 博士(学術)	兼任	准教授	西村 康平 (41) <平成29年4月> 博士(学術)
		日本語リテラシー 英語A1 英語A2 英語C1 英語C2 ことばの科学			日本語リテラシー 英語A1 英語A2 英語C1 英語C2 ことばの科学			日本語リテラシー 英語A1 英語A2 英語C1 英語C2 ことばの科学			日本語リテラシー 英語A1 英語A2 英語C1 英語C2 ことばの科学
兼任	准教授	能地 克宜 (42) <平成29年4月> 博士(学術)	兼任	准教授	能地 克宜 (42) <平成29年4月> 博士(学術)	兼任	准教授	能地 克宜 (43) <平成29年4月> 博士(学術)			
		日本語リテラシー 文学の世界			日本語リテラシー 文学の世界			日本語リテラシー 文学の世界			
兼任	准教授	松本 麻子 (47) <平成29年4月> 博士(文学)	兼任	准教授	松本 麻子 (47) <平成29年4月> 博士(文学)	兼任	准教授	松本 麻子 (48) <平成29年4月> 博士(文学)	兼任	教授	松本 麻子 (49) <平成29年4月> 博士(文学)
		日本語リテラシー			日本語リテラシー			日本語リテラシー			日本語リテラシー
									兼任	教授	玉野 元 (45) <平成31年4月> 博士(文学)
											日本語リテラシー
											中島 清洲 (62) <令和2年4月> 教育学士
											日本語リテラシー
兼任	准教授	高橋 義考 (47) <平成29年4月> 博士(工学)	兼任	准教授	高橋 義考 (47) <平成29年4月> 博士(工学)	兼任	准教授	高橋 義考 (48) <平成29年4月> 博士(工学)	兼任	准教授	高橋 義考 (49) <平成29年4月> 博士(工学)
		コンピュータリテラシー			コンピュータリテラシー			コンピュータリテラシー 自然科学のあゆみ			コンピュータリテラシー 自然科学のあゆみ
兼任	准教授	中尾 剛 (49) <平成29年4月> 博士(工学)	兼任	教授	中尾 剛 (49) <平成29年4月> 博士(工学)	兼任	教授	中尾 剛 (50) <平成29年4月> 博士(工学)	兼任	教授	中尾 剛 (51) <平成29年4月> 博士(工学)
		コンピュータリテラシー			コンピュータリテラシー			コンピュータリテラシー			コンピュータリテラシー
兼任	准教授	大津 理香 (43) <平成29年4月> Master of Science in Education	兼任	准教授	大津 理香 (43) <平成29年4月> Master of Science in Education	兼任	准教授	大津 理香 (44) <平成29年4月> Master of Science in Education			
		英語A1 英語A2 英語B1 英語B2 英語C1 英語C2			英語A1 英語A2 英語B1 英語B2 英語C1 英語C2			英語A1 英語A2 英語B1 英語B2 英語C1 英語C2			
兼任	准教授	川井 一枝 (58) <平成29年4月> 博士(国際文化)									
		英語B1 英語B2 英語C1 英語C2									
兼任	准教授	菊池 武 (55) <平成29年4月> Master of Arts Major	兼任	准教授	菊池 武 (55) <平成29年4月> Master of Arts Major						
		英語A1 英語A2 英語B1 英語B2			英語A1 英語A2 英語B1 英語B2						
兼任	准教授	高島 翠 (39) <平成29年4月> 博士(心理学)	兼任	准教授	高島 翠 (39) <平成29年4月> 博士(心理学)	兼任	准教授	高島 翠 (40) <平成29年4月> 博士(心理学)	兼任	准教授	高島 翠 (41) <平成29年4月> 博士(心理学)
		心の科学			心の科学			心理学概論			心理学概論
兼任	准教授	菅野 昌史 (46) <平成29年4月> 法学修士	兼任	教授	菅野 昌史 (46) <平成29年4月> 法学修士	兼任	教授	菅野 昌史 (49) <平成29年4月> 法学修士	兼任	教授	菅野 昌史 (50) <平成29年4月> 法学修士
		法学入門 災害からの復興			法学入門 災害からの復興			法学入門 災害からの復興			法学入門 災害からの復興 暮らしのなかの憲法 社会学入門
兼任	准教授	吉川 真一 (59) <平成29年4月> 博士(薬学)	兼任	教授	吉川 真一 (59) <平成29年4月> 博士(薬学)	兼任	教授	吉川 真一 (60) <平成29年4月> 博士(薬学)	兼任	教授	吉川 真一 (61) <平成29年4月> 博士(薬学)
		災害からの復興 健康と薬			災害からの復興 健康と薬			災害からの復興 健康と薬			災害からの復興 健康と薬
											金 世煥 (50) <平成30年4月> 医学博士
											韓国語1 韓国語2
											韓国語1 韓国語2 経営学入門
											田中 義和 (47) <平成30年4月> 学士(現代文化)
											経営学入門
											萩原 久佳 (53) <平成30年4月> 博士(学術)
											自然科学のあゆみ
											萩原 久佳 (54) <平成30年4月> 博士(学術)
											自然科学のあゆみ

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
					江藤 志洋 (40) <平成30年4月> 博士(薬学)			江藤 志洋 (41) <平成30年4月> 博士(薬学)			江藤 志洋 (42) <平成30年4月> 博士(薬学)
					生命の科学			生命の科学			生命の科学
											丹治 貴博 (44) <令和2年4月> 博士(薬学)
											生命の科学
兼任	助教	和足 憲明 (39) <平成29年4月> 博士(法学)	兼任	助教	和足 憲明 (39) <平成29年4月> 博士(法学)	兼任	助教	和足 憲明 (40) <平成29年4月> 博士(法学)			
		暮らしのなかの憲法 政治学入門			暮らしのなかの憲法 政治学入門			暮らしのなかの憲法 政治学入門			
兼任	助教	永田 隆之 (44) <平成29年4月> 博士(医学)	兼任	助教	永田 隆之 (44) <平成29年4月> 博士(医学)	兼任	助教	永田 隆之 (45) <平成29年4月> 博士(医学)	兼任	助教	永田 隆之 (47) <平成29年4月> 博士(医学)
		健康と薬			健康と薬			健康と薬			健康と薬
兼任	助教	佐藤 晴 (39) <平成29年4月> 博士(薬学)	兼任	助教	佐藤 晴 (39) <平成29年4月> 博士(薬学)	兼任	助教	佐藤 晴 (40) <平成29年4月> 博士(薬学)	兼任	助教	佐藤 晴 (41) <平成29年4月> 博士(薬学)
		食品の科学			食品の科学			食品の科学			食品の科学
兼任	助教	佐藤 拓 (37) <平成29年4月> 博士(文学)	兼任	助教	佐藤 拓 (37) <平成29年4月> 博士(文学)						
		統計のしくみ			統計のしくみ						
兼任	講師	佐藤 健二 (60) <平成29年4月> 理学博士	兼任	講師	佐藤 健二 (60) <平成29年4月> 理学博士	兼任	講師	佐藤 健二 (61) <平成29年4月> 理学博士	兼任	講師	佐藤 健二 (62) <平成29年4月> 理学博士
		放射線と環境			放射線と環境			放射線と環境			放射線と環境
兼任	講師	柿沼 志津子 (61) <平成30年4月> 薬学博士	兼任	講師	柿沼 志津子 (61) <平成30年4月> 薬学博士	兼任	講師	柿沼 志津子 (62) <平成30年4月> 薬学博士	兼任	講師	柿沼 志津子 (63) <平成30年4月> 薬学博士
		放射線と人体			放射線と人体			放射線と人体			
兼任	講師	大島 弓子 (68) <平成29年4月> 教育学修士	兼任	講師	大島 弓子 (68) <平成29年4月> 教育学修士	兼任	講師	大島 弓子 (69) <平成29年4月> 教育学修士			
		看護実践基礎学VI(看護過程)			看護実践基礎学VI(看護過程)			看護実践基礎学VI(看護過程)			
兼任	講師	本多 つよし (59) <平成31年4月> 医学博士	兼任	講師	本多 つよし (59) <平成31年4月> 医学博士	兼任	講師	本多 つよし (60) <平成31年4月> 医学博士	兼任	講師	本多 つよし (61) <平成31年4月> 医学博士
		医療安全 チーム医療			医療安全 チーム医療			医療安全 チーム医療			医療安全 チーム医療
兼任	講師	鮎岡 アリソン (44) <平成31年4月> 修士(言語学)	兼任	講師	鮎岡 アリソン (44) <平成31年4月> 修士(言語学)	兼任	講師	鮎岡 アリソン (45) <平成31年4月> 修士(言語学)	兼任	講師	鮎岡 アリソン (46) <平成31年4月> 修士(言語学)
		英語B1 英語B2			英語B1 英語B2			英語B1 英語B2			英語B1 英語B2
兼任	講師	金成 綾(崔 文暻) (44) <平成30年4月> 学士(文学)	兼任	講師	金成 綾(崔 文暻) (44) <平成30年4月> 学士(文学)						
		韓国語1 韓国語2			韓国語1 韓国語2						
兼任	講師	久野 雅司 (45) <平成29年4月> 修士(文学)	兼任	講師	久野 雅司 (45) <平成29年4月> 修士(文学)	兼任	講師	久野 雅司 (46) <平成29年4月> 修士(文学)	兼任	講師	久野 雅司 (47) <平成29年4月> 修士(文学)
		日本の歴史と文化			日本の歴史と文化			日本の歴史と文化			日本の歴史と文化
兼任	講師	吉村 忠晴 (51) <平成29年4月> 理学修士	兼任	講師	吉村 忠晴 (51) <平成29年4月> 理学修士						
		経済学入門			経済学入門						
兼任	講師	梅津 実 (61) <平成29年4月> 理学博士	兼任	講師	梅津 実 (61) <平成29年4月> 理学博士						
		地球環境の科学			地球環境の科学						
兼任	講師	柴野 照夫 (66) <平成29年4月> 体育学修士	兼任	講師	柴野 照夫 (66) <平成29年4月> 体育学修士	兼任	講師	柴野 照夫 (67) <平成29年4月> 体育学修士			
		健康の科学			健康の科学			健康の科学			
兼任	講師	千葉 陽子 (63) <平成29年4月> 体育学士	兼任	講師	千葉 陽子 (63) <平成29年4月> 体育学士	兼任	講師	千葉 陽子 (64) <平成29年4月> 体育学士			
		健康・スポーツ1 健康・スポーツ2			健康・スポーツ1 健康・スポーツ2			健康・スポーツ1 健康・スポーツ2			健康・スポーツ1 健康・スポーツ2

専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等	専任・兼任・兼任の別	職名	氏名 (年齢) <就任(予定)年月> 保有学位等
		担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名			担当授業科目名
兼任	講師	根本 昌樹 (54) <平成29年4月> 体育学士	兼任	講師	根本 昌樹 (54) <平成29年4月> 体育学士	兼任	講師	根本 昌樹 (55) <平成29年4月> 体育学士	兼任	講師	根本 昌樹 (57) <平成29年4月> 体育学士
		健康・スポーツ1			健康・スポーツ1			健康・スポーツ1			健康・スポーツ1
		健康・スポーツ2			健康・スポーツ2			健康・スポーツ2			健康・スポーツ2
						兼任	講師	吉田 健一 (65) <平成30年4月> 修士(教養)	兼任	講師	吉田 健一 (65) <平成30年4月> 修士(教養)
								中国語1			中国語1
								中国語2			中国語2
						兼任	講師	山田 貴浩 (45) <平成30年4月> 博士(工学)	兼任	講師	山田 貴浩 (47) <平成30年4月> 博士工学
								統計のしくみ			統計のしくみ
								地球環境の科学			地球環境の科学
									兼任	講師	帆刈 基生 (37) <平成31年4月> 修士(文学)
											文学の世界
						兼任	講師	阿部 康雄 (38) <平成31年4月> 修士(政治学)	兼任	講師	阿部 康雄 (37) <平成31年4月> 修士(政治学)
											政治学入門
											助産師 曾子 (61) <令和2年4月> 文学修士
											英語A1
											英語A2
											亀岡 浩一 (57) <令和2年4月> 文学修士
											英語A1
											英語A2
											英語C1
											英語C2
						兼任	講師	野村 光雄 (50) <平成31年4月> 修士(学術)	兼任	講師	野村 光雄 (51) <平成31年4月> 修士(学術)
											日本語リテラシー
											ことばの科学
											世界の歴史と文化
											安井 潤孝 (50) <令和2年4月> 修士(看護学)
											放射線と人体

(注) ・ 報告年度の6月1日現在の情報を記入してください。(過年度については、各年度末時点の情報として記入してください)
・ 認可申請書又は設置届出書の様式第3号(その2の1)に準じて作成してください。
・ 「認可時又は届出時」には、設置認可時又は届出時の教員全て(兼任、兼任教員を含む。)を黒字で記入してください。
その上で、**属可時又は届出時から変更となっている箇所は赤字の赤字としてください。**
・ 各欄の作成方法は「大学の設置等に係る届出書類作成の手引き」の「教員名簿」を確認してください。
・ 年齢は、**それぞれの年度の6月1日時点の満年齢**を記入してください。
・ 専任(専門職大学等は専、実専、実(研)、実(実)、兼任、兼任の順に記入してください。
・ 不要な年度(平成30年度開設であれば平成29年度)の表は適宜削除し、詰めてください。

(1) ②担当教員表に関する変更内容

【平成29年度】

- ・藤岡寛教授就任辞退。後任未定であるが、平成30年4月から専任教員採用予定で公募中。
- ・鈴木裕子講師就任辞退。後任未定であるが、平成30年4月から専任教員採用予定で公募中。
- ・片寄泰子助教就任辞退。後任未定であるが、平成30年4月から専任教員採用予定で公募中。
- ・豊小椋兼担教授就任。兼任講師として新たに採用。
- ・中尾剛兼担教授。教授へ昇格。
- ・川井一枝兼担准教授就任。他に担当教員がいるため支障はない。
- ・菅野昌史兼担准教授。教授へ昇格。
- ・吉川真一兼担准教授。教授へ昇格。
- ・佐藤拓兼担助教。准教授へ昇格。

【平成30年度】

- ・藤岡寛教授就任辞退に伴う後任について、平成30年10月から専任教員採用予定で公募中。
- ・鈴木裕子講師就任辞退に伴う後任について、平成30年4月より、後藤恭一講師就任。平成30年1月教員審査済み。
- ・片寄泰子助教就任辞退に伴う後任について、平成30年10月から専任教員採用予定で公募中。
- ・鈴木祐子助教。平成30年4月より、職位変更並びに担当科目の追加。平成29年11月教員審査済み。(講師)(健康生活看護学(精神援助)、健康生活看護学実習(精神))
- ・臼井千津教授就任。後任未定であるが、平成30年9月から専任教員採用予定で公募中。
- ・古地順子教授就任。後任未定であるが、平成30年9月から専任教員採用予定で公募中。
- ・荒井春生教授就任。後任未定であるが、平成30年9月から専任教員採用予定で公募中。
- ・山達素子准教授就任。後任未定であるが、平成30年9月から専任教員採用予定で公募中。
- ・丸山恵子助教就任。後任未定であるが、平成30年9月から専任教員採用予定で公募中。
- ・教育内容充実の理由により、林正幸教授の担当科目の一部を後藤恭一講師へ変更。(公衆衛生学、保健統計学、疫学)
- ・教育内容充実の理由により、山崎洋次兼担教授を佐藤龍昌兼担教授へ変更。
- ・藤岡寛教授就任辞退の理由により、担当科目の一部をレンテンマン美智子教授へ変更。平成29年11月教員審査済み。(健康生活看護学(小児概論))
- ・菊池武兼担教授就任に伴い、ティモシークック兼担教授へ変更。
- ・教育内容充実の理由により、豊小椋兼任講師の担当科目の一部を吉田健一兼任講師へ変更(中国語1、中国語2)。
- ・金成綾兼任講師就任の理由により、金世煥兼担准教授へ変更。
- ・奥村賢兼担教授就任。兼任講師として新たに採用。
- ・吉和忠明兼任講師就任の理由により、大嶋淳俊兼担教授、田中美和兼担准教授へ変更。
- ・和足憲明兼担助教。講師へ昇格。
- ・中田芳幸兼担教授就任の理由により、萩原久佳兼担教授、高橋義考兼担准教授へ変更。
- ・永田隆之兼担助教。准教授へ昇格。
- ・佐藤拓兼担教授就任の理由により、山田貴浩兼任講師へ変更。
- ・岩田恵理兼担教授就任の理由により、菊池雄士兼担教授、片桐拓也兼担教授、奈良武司兼担教授、江藤忠洋兼担教授、久保田耕司兼担助教へ変更。
- ・佐藤陽兼担助教。准教授へ昇格。
- ・梅津実兼任講師就任の理由により、山田貴浩兼任講師へ変更。

【令和元年度】

- ・平成31年1月、大堀昇教授就任。平成30年11月教員審査済み。
- ・平成30年7月及び9月、狩谷恭子准教授担当科目追加。平成30年4月教員審査済み。(「生涯発達看護学(成人)」、「健康生活看護学(成人概論)」、「健康生活看護学(成人・急性期)」、「健康生活看護学(成人・周手術期)」、「看護実践基盤学Ⅰ(看護学原論)」、「看護実践基盤学Ⅱ(コミュニケーション)」)
- ・平成30年7月及び9月、樫山定美講師授業担当科目追加。平成30年4月教員審査済み。(「看護実践基盤学Ⅰ(看護学原論)」、「看護実践基盤学Ⅱ(コミュニケーション)」、「生涯発達看護学(成人)」、「健康生活看護学(成人・急性期)」、「健康生活看護学(成人・慢性期)」、「健康生活看護学(成人・回復終末期)」)
- ・平成30年9月、矢澤香代子講師就任。平成30年7月教員審査済み。
- ・平成30年7月及び9月、鈴木祐子講師授業担当科目追加。平成30年4月教員審査済み。(「看護実践基盤学Ⅰ(看護学原論)」、「健康生活看護学(精神概論)1」、「健康生活看護学(精神概論)2」)
- ・福田幸夫兼担教授就任により、鎌田真理子兼担教授に変更。(「社会福祉学」、「保健医療福祉行政論」、「チーム医療」)
- ・奥村賢兼任講師就任により、久保高之兼担教授に変更。(「芸術の世界」)
- ・山口憲二兼担教授の担当科目を金世煥兼担教授に変更。(「経営学入門」)
- ・大嶋淳俊兼担教授就任により、山口憲二兼担教授に変更。(「経済学入門」)
- ・能地克宜兼担教授就任により、帆刈基生兼任講師に変更。(「文学の世界」)
- ・松本麻子兼担准教授。教授へ昇格。
- ・大津理香兼担准教授就任。(共同担当教員がいるため支障はない)
- ・田中美和兼担准教授就任。(共同担当教員がいるため支障はない)
- ・和足憲明兼担助教就任により、菅野昌史兼担教授へ変更。(「暮らしのなかの憲法」)
- ・和足憲明兼担助教就任により、阿部慶徳兼任講師へ変更。(「政治学入門」)
- ・豊小椋兼任講師就任により、野村光義兼任講師へ変更。(「世界の歴史と文化」)
- ・大島弓子兼任講師就任。(共同担当教員がいるため支障はない)
- ・柴野照夫兼任講師就任。(共同担当教員がいるため支障はない)
- ・千葉陽子兼任講師就任。(共同担当教員がいるため支障はない)

【令和2年度】

<ul style="list-style-type: none"> ・令和2年3月、橋本知子教授 退職（「フレッシュャーズセミナー」、「生涯発達看護学(老年)」、「健康生活看護学(老年概論)」、「健康生活看護学実習(老年)1」、「健康生活看護学実習(老年)2」、「卒業研究」） ・令和2年3月、鈴木直子講師 退職（「フレッシュャーズセミナー」、「看護実践基盤学Ⅰ（看護学原論）」、「看護実践基盤学実習(基礎)1」、「看護実践基盤学実習(基礎)2」、「看護学統合実習」、「卒業研究」、「公衆衛生看護方法論1」、「公衆衛生看護活動論」、「公衆衛生看護学実習A」、「公衆衛生看護学実習B」） ・令和2年3月、鈴木祐子講師 退職（「フレッシュャーズセミナー」、「看護実践基盤学実習(基礎)1」、「看護実践基盤学実習(基礎)2」、「健康生活看護学(精神概論)1」、「健康生活看護学(精神概論)2」、「災害看護演習」、「看護援助技術レファレンス」、「看護学統合実習」） ・令和元年7月、茂木康子教授 授業担当科目追加。令和元年6月教員審査済み。（「フレッシュャーズセミナー」、「看護実践基盤学Ⅰ（看護学原論）」、「健康生活看護学(精神概論)1」、「健康生活看護学(精神概論)2」、「健康生活看護学(精神援助)」、「健康生活看護学実習(精神)」、「チーム医療」、「看護学シミュレーション」、「看護学統合実習」、「卒業研究」、「緩和ケア」） ・令和元年9月、稲毛咲子准教授 授業担当科目追加。令和元年6月教員審査済み。（「フレッシュャーズセミナー」、「災害看護」、「災害看護演習」、「看護学統合実習」、「卒業研究」、「公衆衛生看護学概論」、「学校保健 産業保健」、「公衆衛生看護方法論1」、「公衆衛生看護方法論2」、「公衆衛生看護活動論」、「公衆衛生看護管理論」、「公衆衛生看護学実習A」、「公衆衛生看護学実習B」） ・令和2年4月、後藤雪絵専任講師 授業担当科目追加。令和元年11月教員審査済み。（「フレッシュャーズセミナー」、「生涯発達看護学(老年)」、「健康生活看護学(老年概論)」、「健康生活看護学実習(老年)1」、「健康生活看護学実習(老年)2」、「看護学統合実習」、「卒業研究」） ・令和2年4月、吉田和樹准教授 授業担当科目追加。令和元年11月教員審査済み。（「フレッシュャーズセミナー」、「地域養生看護学実習(在宅)」、「災害看護演習」、「看護学統合実習」、「卒業研究」、「公衆衛生看護方法論1」、「公衆衛生看護方法論2」、「公衆衛生看護活動論」、「公衆衛生看護学実習A」、「公衆衛生看護学実習B」） ・令和2年4月、野崎裕之講師 授業担当科目追加。令和元年11月教員審査済み。（「フレッシュャーズセミナー」、「看護実践基盤学実習(基礎)1」、「看護実践基盤学実習(基礎)2」、「健康生活看護学(精神概論)2」、「健康生活看護学(精神援助)」、「健康生活看護学実習(精神)」、「災害看護」、「災害看護演習」、「看護学統合実習」、「卒業研究」） ・令和2年4月、小野寺悦子助教 授業担当科目追加。令和元年11月教員審査済み。（「フレッシュャーズセミナー」、「看護実践基盤学実習(基礎)1」、「看護実践基盤学実習(基礎)2」、「健康生活看護学(小児援助)」、「健康生活看護学実習(小児)」、「災害看護」、「災害看護演習」、「看護学統合実習」） ・令和2年4月、河田真理子助教 授業担当科目追加。令和元年6月教員審査済み。（「地域養生看護学実習(在宅)」、「看護援助技術レファレンス」、「卒業研究」） ・狩谷恭子准教授 科目追加（平成30年より）は記載誤り、実際の担当もなし（「看護実践基盤学Ⅰ（看護学原論）」、「看護実践基盤学Ⅱ（コミュニケーション）」）。 ・松本麻子兼担教授、辞任により、中島清洲兼担教授に変更。（「日本語リテラシー」） ・西村康平兼担教授、辞任により、野村光義兼任講師に変更。（「日本語リテラシー」） ・能地克宜兼担教授、辞任により、玉懸元兼担教授に変更（令和元年より）。（「日本語リテラシー」） ・高橋義孝兼担教授、辞任により、森鐘民兼担講師に変更。（「コンピュータリテラシー」） ・西村康平兼担教授、辞任により、勅使河原智子兼担講師、亀岡浩一兼担講師に変更。（「英語A1」、「英語A2」） ・西村康平兼担教授、辞任により、亀岡浩一兼担講師に変更。（「英語C1」、「英語C2」） ・西村康平兼担教授、辞任により、野村光義兼任講師に変更。（「ことばの科学」） ・菊池真弓兼担教授、辞任により、菅野昌史兼担教授に変更。（「社会学入門」） ・菊池真弓兼担教授、辞任により、令和2年度休講。（「ジェンダー論」） ・高橋義孝兼担教授 退職。（「自然科学のあゆみ」） ・久保田耕司兼担助教、辞任により、丹治貞博准教授に変更。（「生命の科学」） ・中田芳幸兼担教授辞任、「災害からの復興」（平成30年度追加事項）。（共同担当教員がいるため支障はない） ・林洋一兼担教授辞任、「災害からの復興」。（共同担当教員がいるため支障はない） ・柴野照夫兼任講師辞任により、安井清孝兼任講師へ変更。（「放射線と人体」）

- (注) ・ 変更内容を簡条書きで記入してください。変更がない年度は「特になし。」と記入してください。
- ・ **認可で設置された学部等の専任教員を変更する場合は**、当該専任教員が授業を開始する前に必ず「専任教員採用等設置計画変更書」を提出し、大学設置・学校法人審議会による教員資格審査（AC教員審査）を受けてください。**AC教員審査を受けずに専任教員として授業等を担当することは出来ません。**
- ・ 「専任教員採用等変更書（AC）」を提出し「可」の教員判定を受けている場合は「〇年〇月教員審査済み」と記入してください。
- なお、設置認可審査時に教員審査省略となっている場合は、「教員審査省略」と記入してください。
- ・ 不要な年度（平成30年度開設であれば平成29年度）の表は適宜削除してください。

(2) 専任教員数等

(2) 一① 設置基準上の必要専任教員数

完成年度時における 設置基準上の必要専 任教員数	うち、完成年度時に おける設置基準上の 必要教授数
12	6
名	名

(注) ・ 大学設置基準第十三条別表第一、短期大学設置基準第二十二條別表第一により算出される専任教員数を記入してください。

(2) 一② 専任教員等数【大学】

設置時の計画						現在（報告時）の状況					
教授	准教授	講師	助教	計 (A)	助手 (A')	教授	准教授	講師	助教	計 (B)	助手 (B')
12	5	5	8	30	5	6	4	8	3	21	5
(11)	(5)	(4)	(7)	(27)	(5)						
現在（報告時）の完成年度時の状況						現在（報告時）の完成年度時の計画					
教授	准教授	講師	助教	計 (C)	助手 (C')	教授	准教授	講師	助教	計 (D)	助手 (D')
6	4	8	3	21	5	12	5	9	4	30	5
[△6]	[△1]	[3]	[△5]	[△9]	[0]	[0]	[0]	[4]	[△4]	[0]	[0]

(注) ・ 「設置時の計画」には、設置時に予定されていた完成年度時の人数を記入するとともに、() 内に開設時の状況を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の状況」には、報告年度の5月1日の教員数（実人数）を記入してください。
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の状況」には、「現在（報告時）の状況」に記入した数字に、教員審査を受審済みであり、完成年度までに就任する教員数を加えた数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）
 ・ 「現在（報告時）の完成年度時の計画」には、予定されている完成年度時の人数を記入するとともに、[] 内に設置時の計画との増減数を記入してください。（記入例：1名減の場合：△1）

(2) 一③ 年齢構成

年齢構成		
定年規定の定める 定年年齢（歳）	報告時（上記 (B)）の教員の うち、定年を延長 して採用している 教員数	完成年度時（上記 (C)）の教員う ち、定年を延長し て採用する教員数
65	4	4
歳	名	名

(注) ・ 「年齢構成」には、当該学部における教員の定年に関する規定に基づく定年年齢（特例等による定年年齢ではありません）、及び、報告年度の5月1日現在、定年に関する規定に基づく特例等により定年を超えて専任教員として採用されている教員数及び完成年度時に定年を超えて専任教員として採用する教員数を記入してください。
 ・ なお、職位等によって定年年齢が異なる場合には、職位ごとの定年年齢を「定年規定の定める定年年齢」に二重書きで記入し、「定年を延長している教員数」には合算した数を記入してください。

(2) 一④ 設置時の計画に対する教員充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C)}}{\text{設置時の計画(A)}} = \frac{21}{30} = \boxed{70} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 一⑤ 現在（報告時）の状況における定年を延長している教員構成率

$$\frac{\text{報告時の教員のうち、定年を延長して採用している教員数}}{\text{現在（報告時）の状況(B)}} = \frac{4}{21} = \boxed{19.04} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(2) 一⑥ 設置時の計画に対する助手充足率

$$\frac{\text{現在（報告時）の完成年度時の状況(C')}}{\text{設置時の計画(A')}} = \frac{5}{5} = \boxed{100} \%$$

(注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) 専任教員辞任等の理由

(3) - ① 専任教員の就任辞退（未就任）の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	就任辞退（未就任）の理由						
1	教授	藤岡 寛	H29.3	必修	生涯発達看護学（小児）	①	H29.3 私事都合のため就任辞退（29）						
				必修	健康生活看護学（小児概論）	①							
				必修	健康生活看護学（小児援助）	①							
				必修	健康生活看護学実習（小児）	①							
				必修	看護学シミュレーション	①							
				必修	看護学統合実習	①							
				必修	看護援助技術レファレンス	①							
2	講師	鈴木 裕子	H29.3	必修	看護実践基盤学実習（基礎）1	①	H29.3 私事都合のため就任辞退（29）						
				必修	看護実践基盤学実習（基礎）2	①							
				必修	地域養生看護学（在宅援助）	①							
				必修	地域養生看護学実習（在宅）	①							
				必修	看護学シミュレーション	①							
				必修	看護学統合実習	①							
				必修	卒業研究	①							
				自由	公衆衛生看護方法論2	①							
				自由	公衆衛生看護学実習A	①							
				自由	公衆衛生看護学実習B	①							
3	助教	片寄 泰子	H29.3	必修	看護実践基盤学実習（基礎）1	①	H29.3 私事都合のため就任辞退（29）						
				必修	看護実践基盤学実習（基礎）2	①							
				必修	看護学シミュレーション	①							
				必修	看護学統合実習	①							
				必修	看護援助技術レファレンス	①							
合計（D）					後任補充状況の集計（E）								
就任を辞退した教員数		担当科目数の合計（a）+（b）+（c）			①の合計数（a）	②の合計数（b）	③の合計数（c）						
3	人	必修	20	科目	必修	20	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	3	科目	自由	3	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	23	科目	計	23	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ 認可時又は届出時以降、就任を辞退した全ての専任教員の就任辞退の理由を具体的に記入してください。
- ・ 「就任辞退（未就任）」とは、認可又は届出時に就任予定としながら、実際には就任しなかった教員のことです。就任した後に辞任した教員は、以下「(3) - ②専任教員辞任の理由及び後任補充状況」に記入してください。
 - ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時までに専任教員が新たに就任を辞退した場合、赤字にて記入するとともに、「就任辞退（未就任）の理由」に就任辞退の理由等及び（ ）書きで報告年度を記入してください。
 - ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

・ 専任教員が担当する（している）場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する（している）場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ② 専任教員辞任の理由及び後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
1	教授	臼井 千津	H30.3	必修	生涯発達看護学(成人)	①	H30.3.31付け私事都合のため辞任(30)
				必修	健康生活看護学(成人概論)	①	
				必修	健康生活看護学(成人・急性期)	①	
				必修	健康生活看護学(成人・周手術期)	①	
				必修	健康生活看護学実習(成人)	①	
				必修	地域養生看護学(在宅概論)	①	
				必修	地域養生看護学(在宅援助)	①	
				必修	災害看護	①	
				必修	災害看護演習	①	
				必修	訪問看護マネジメント	①	
				必修	看護学シミュレーション	①	
必修	卒業研究	①					
2	教授	古地 順子	H30.3	必修	看護実践基盤学Ⅰ(看護学原論)	①	H30.3.31付け私事都合のため辞任(30)
				必修	看護実践基盤学Ⅱ(コミュニケーション)	①	
				必修	生涯発達看護学(成人)	①	
				必修	健康生活看護学(成人概論)	①	
				必修	健康生活看護学(成人・慢性期)	①	
				必修	健康生活看護学(成人・回復終末期)	①	
				必修	健康生活看護学実習(成人)	①	
				選択	リハビリテーション看護論	①	
				必修	卒業研究	①	
				必修	看護実践基盤学Ⅰ(看護学原論)	①	
				必修	看護実践基盤学Ⅱ(コミュニケーション)	①	
必修	看護実践基盤学Ⅲ(アセスメント技術)	①					
必修	看護実践基盤学Ⅳ(生活援助技術)	①					
必修	看護実践基盤学Ⅴ(診療補助技術)	①					
必修	看護実践基盤学Ⅵ(看護過程)	①					
必修	健康生活看護学(精神概論)1	①					
必修	健康生活看護学(精神概論)2	①					
必修	健康生活看護学(精神援助)	①					
必修	健康生活看護学実習(精神)	①					
必修	チーム医療	①					
選択	緩和ケア	①					
必修	卒業研究	①					
3	教授	荒井 春生	H30.3	必修	看護実践基盤学Ⅰ(看護学原論)	①	H30.3.31付け私事都合のため辞任(30)
				必修	看護実践基盤学Ⅱ(コミュニケーション)	①	
				必修	看護実践基盤学Ⅲ(アセスメント技術)	①	
				必修	看護実践基盤学Ⅳ(生活援助技術)	①	
				必修	看護実践基盤学Ⅴ(診療補助技術)	①	
				必修	看護実践基盤学Ⅵ(看護過程)	①	
				必修	健康生活看護学(精神概論)1	①	
				必修	健康生活看護学(精神概論)2	①	
				必修	健康生活看護学(精神援助)	①	
				必修	健康生活看護学実習(精神)	①	
				必修	チーム医療	①	
選択	緩和ケア	①					
必修	卒業研究	①					
4	准教授	山邊 素子	H30.3	必修	看護実践基盤学Ⅰ(看護学原論)	①	H30.3.31付け私事都合のため辞任(30)
				必修	看護実践基盤学Ⅱ(コミュニケーション)	①	
				必修	看護実践基盤学Ⅲ(アセスメント技術)	①	
				必修	看護実践基盤学Ⅳ(生活援助技術)	①	
				必修	看護実践基盤学Ⅴ(診療補助技術)	①	
				必修	看護実践基盤学Ⅵ(看護過程)	①	
				必修	看護実践基盤学実習(基礎)1	①	
				必修	看護実践基盤学実習(基礎)2	①	
				必修	看護研究	①	
				必修	卒業研究	①	
				必修	フレッシュヤーズセミナー	①	
必修	看護実践基盤学Ⅱ(コミュニケーション)	①					
必修	看護実践基盤学Ⅲ(アセスメント技術)	①					
必修	看護実践基盤学Ⅳ(生活援助技術)	①					
必修	看護実践基盤学Ⅴ(診療補助技術)	①					
必修	看護実践基盤学Ⅵ(看護過程)	①					
必修	看護実践基盤学実習(基礎)1	①					
必修	看護実践基盤学実習(基礎)2	①					
必修	健康生活看護学実習(成人)	①					
必修	看護学シミュレーション	①					
必修	看護学統合実習	①					
必修	看護援助技術レファレンス	①					
6	教授	林 正幸	H31.3	必修	フレッシュヤーズセミナー	①	H31.3.31付け私事都合のため辞任(元)
				必修	災害看護演習	①	
				必修	卒業研究	①	
7	教授	小林 紀明	H31.3	必修	フレッシュヤーズセミナー	①	H31.3.31付け私事都合のため辞任(元)
				必修	健康生活看護学実習(老年)1	①	
				必修	健康生活看護学実習(老年)2	①	
				必修	地域養生看護学(在宅概論)	①	
				必修	地域養生看護学(在宅援助)	①	
				必修	地域養生看護学実習(在宅)	①	
				必修	看護学シミュレーション	①	
				必修	看護学統合実習	①	
				必修	看護援助技術レファレンス	①	
				必修	卒業研究	①	

番号	職位	専任教員氏名	時期	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由
8	教授	黒田 真理子	H31.3	必修	看護学シミュレーション	①	H31.3.31付け死亡により辞任（元）
				必修	看護学統合実習	①	
				必修	卒業研究	①	
				自由	公衆衛生看護学概論	①	
				自由	公衆衛生看護方法論1	①	
				自由	公衆衛生看護方法論2	①	
				自由	公衆衛生看護活動論	①	
				自由	学校保健・産業保健	①	
				自由	公衆衛生看護管理論	①	
				自由	公衆衛生看護学実習A	①	
9	准教授	大内 隆	H30.7	必修	健康生活看護学（老年援助）	①	H30.7.31付け私事都合のため辞任（元）
				必修	健康生活看護学実習（老年）1	①	
				必修	健康生活看護学実習（老年）2	①	
				必修	看護学シミュレーション	①	
				必修	看護学統合実習	①	
				必修	看護援助技術レファレンス	①	
				必修	卒業研究	①	
10	助教	柴崎 真澄	H31.3	必修	看護実践基盤学VI（看護過程）	①	H31.3.31付け私事都合のため辞任（元）
				必修	看護実践基盤学実習（基礎）1	①	
				必修	看護実践基盤学実習（基礎）2	①	
				必修	健康生活看護学（成人・急性期）	①	
				必修	健康生活看護学実習（成人）	①	
				必修	チーム医療	①	
				必修	看護学シミュレーション	①	
				必修	看護学統合実習	①	
				必修	看護援助技術レファレンス	①	
				必修	看護実践基盤学実習（基礎）1	①	
11	助教	池田 真由美	H31.3	必修	看護実践基盤学実習（基礎）2	①	H31.3.31付け私事都合のため辞任（元）
				必修	健康生活看護学（母性援助）	①	
				必修	健康生活看護学実習（母性）	①	
				必修	健康生活看護学実習（小児）	①	
				必修	看護学シミュレーション	①	
				必修	看護学統合実習	①	
				必修	看護援助技術レファレンス	①	
				必修	看護実践基盤学実習（基礎）1	①	
12	助教	大河内 敦子	H31.3	必修	看護実践基盤学実習（基礎）2	①	H31.3.31付け私事都合のため辞任（元）
				必修	健康生活看護学実習（精神）	①	
				必修	看護学シミュレーション	①	
				必修	看護学統合実習	①	
				必修	看護援助技術レファレンス	①	
13	教授	橋本 知子	R2.3	必修	フレッシュャーズセミナー	①	R2.3.31付け私事都合のため辞任（2）
				必修	生涯発達看護学（老年）	①	
				必修	健康生活看護学（老年概論）	①	
				必修	健康生活看護学（老年援助）	①	
				必修	健康生活看護学実習（老年）1	①	
				必修	健康生活看護学実習（老年）2	①	
14	講師	鈴木 直子	R2.3	必修	フレッシュャーズセミナー	①	R2.3.31付け私事都合のため辞任（2）
				必修	看護実践基盤学実習（基礎）1	①	
				必修	看護実践基盤学実習（基礎）2	①	
				必修	健康生活看護学実習（老年）1	①	
				必修	看護学シミュレーション	①	
				必修	看護学統合実習	①	
				必修	卒業研究	①	
				自由	公衆衛生看護方法論1	①	
				自由	公衆衛生看護活動論	①	
				自由	公衆衛生看護学実習A	①	
15	講師	鈴木 祐子	R2.3	必修	フレッシュャーズセミナー	①	R2.3.31付け私事都合のため辞任（2）
				必修	看護実践基盤学実習（基礎）1	①	
				必修	看護実践基盤学実習（基礎）2	①	
				必修	災害看護演習	①	
				必修	看護学シミュレーション	①	
				必修	看護学統合実習	①	
				必修	看護援助技術レファレンス	①	
				必修	健康生活看護学（精神援助）	①	
				必修	健康生活看護学実習（精神）	①	
				必修	看護実践基盤学I（看護学原論）	①	
必修	健康生活看護学（精神概論）1	①					
必修	健康生活看護学（精神概論）2	①					

合計 (F)			後任補充状況の集計 (G)							
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
15	人	必修	126	科目	必修	126	科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	2	科目	選択	0	科目
		自由	12	科目	自由	12	科目	自由	0	科目
		計	140	科目	計	140	科目	計	0	科目

- (注) ・ 一度就任した後に、**定年による退職以外の理由で辞任した全ての専任教員**について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(3) - ③ 上記 (3) - ① ・ (3) - ② の合計

合計 (D) + (F)			後任補充状況の集計 (E) + (G)							
辞任等した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
18	人	必修	146	科目	必修	146	科目	必修	0	科目
		選択	2	科目	選択	2	科目	選択	0	科目
		自由	15	科目	自由	15	科目	自由	0	科目
		計	163	科目	計	163	科目	計	0	科目

(3) - ④ 設置時の計画に対する教員辞任率

$$\frac{(3) - ③ \text{合計}(D) + (F)}{(2) - ② \text{設置時の計画}(A)} = \frac{18}{30} = \boxed{60} \%$$

- (注) ・ 小数点以下第3位を切り捨て、小数点以下第2位まで表示されます。

(3) - ⑤ 定年により退職した専任教員に対する後任補充状況

番号	職位	専任教員氏名	必修・選択・自由の別	担当予定科目	後任補充状況	辞任等の理由				
		該当なし								
合計			後任補充状況の集計							
辞任した教員数	担当科目数の合計 (a) + (b) + (c)			①の合計数 (a)		②の合計数 (b)		③の合計数 (c)		
0	人	必修	0	科目	必修	0	科目	必修	0	科目
		選択	0	科目	選択	0	科目	選択	0	科目
		自由	0	科目	自由	0	科目	自由	0	科目
		計	0	科目	計	0	科目	計	0	科目

- (注) ・ **定年により退職した全ての専任教員**について記入してください。
 ・ 昨年度の報告後から今年度の報告時まで専任教員が新たに辞任等した場合、**赤字**にて記入するとともに、「辞任等の理由」に辞任理由等及び()書きで報告年度を記入してください。
 ・ また、担当予定であった科目の後任補充の状況について、各科目ごとに状況を以下「①」～「③」から選択し、「後任補充理由」の欄にその数字を記載してください。

- ・ 専任教員が担当する(している)場合は「①」
 ・ 兼任兼担教員が担当する(している)場合は「②」
 ・ 後任未定、科目廃止など、上記「①」「②」以外の場合は「③」

(4) 専任教員交代に係る「大学の所見」及び「学生への周知方法」

専任教員の交代に関しては、止むを得ない理由と認識しており、教育内容、効果の低下を招かないよう後任の補充を行っている。学生に対しては、シラバス及び期首のオリエンテーション等において周知を図っている。

- (注) ・ 上記 (3) の専任教員辞任等による学生の履修等への影響に関する大学の所見、学生への周知方法、今後の方針などを可能な限り具体的に記入してください。

6 附帯事項等に対する履行状況等
看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の実施計画
認 可 時 (平成28年10月)	1. 1年次後期の配当科目である「看護実践基盤学Ⅲ（アセスメント技術）」及び「疾病治療論Ⅰ」について、各科目内容における学修の順序性が重要となるため、教育効果があがるような授業展開とすること。	<p>留意事項を踏まえ、「看護実践基盤学Ⅲ（アセスメント技術）」および「疾病治療論Ⅰ」では、科目内容に変更が生じないよう留意しつつ、他科目との科目内容の重複や進捗状況を鑑みた上で、学修の順序性に齟齬がでないようシラバスの再検討や教育効果があがるよう配慮した授業を展開すべく準備をすすめてきた。</p> <p>(29)</p> <p>時間割上で、「疾病治療論Ⅰ」を学んだ後に、「看護実践基盤学Ⅲ（アセスメント技術）」を学修できるよう配置している。また、「看護実践基盤学Ⅲ（アセスメント技術）」の授業内容は、疾病等による障害のアセスメントも含んでいるが、主に人間の生活面に視点をあてたアセスメントを学修できるようにしている。昨年の学生の到達度、成績、授業アンケートをみても、授業効果が上がっていると考えている。</p> <p>(元)</p>	<p>今年度授業を実施した後、成績や授業アンケートの結果を利用して科目内容の検証を実施し、必要に応じては、科目内容の変更も検討していく。</p> <p>授業内容を変更する際は、事前に設置審査委員会に諮ることとする。</p> <p>(29)</p> <p>履行済</p> <p>(元)</p>
認 可 時 (平成28年10月)	2. 教員の補充を必要とされた1授業科目については、科目開講時までには教員を充足すること。	<p>留意事項</p> <p>教員の補充を必要とされた「地域養生看護学（在宅援助）」については、開講年次（2年後期）までに兼任を補充して対応する予定である。</p> <p>(29)</p> <p>専任教員により「地域養生看護学（在宅援助）」を開講しているが、該当領域の教員が兼任教員の確保に努めている。</p> <p>(元)</p> <p>地域養生看護学（在宅援助）については、専任教員の充足はかなわなかったが、現任教員で科目を担当し、十分な教育を行っているため特に支障はない。</p> <p>(2)</p>	<p>該当領域の教員が兼任教員の確保に努めていく。</p> <p>(29)</p> <p>該当領域の教員が継続して兼任教員の確保に努めている。</p> <p>(元)</p> <p>今後も、当該領域の教員が継続して教員の確保に努めていく。</p> <p>(2)</p> <p>履行中</p>

看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (平成28年10月)</p>	<p>3. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編制の将来構想について検討すること。</p>	<p>法人の経営委員会人事検討部会について、毎年、次年度の教員補充について検討している。 看護学部については、現在退職教員の補充について公募を検討しているところであるが、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(29)</p> <p>学校法人経営委員会において、毎年、次年度の教員補充について検討している。 看護学部については、現在退職教員の補充について公募を実施しており、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(元)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」において、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 また、看護学部人事選考委員会において、退職教員の補充及び新規採用について、教員組織の年齢構成に留意した採用に努めている。</p> <p>(2)</p>	<p>法人の経営委員会人事部会において、毎年、教員補充についての検討を行っていく。中期的には看護学部完成年度までに、各専門領域における教員組織編制の将来構想について検討していく。</p> <p>(29)</p> <p>学校法人経営委員会において、継続して教員補充について検討していく。また、各専門領域における教員組織編制の将来構想についても併せて検討していく。</p> <p>(元)</p> <p>継続して、教員人事在り方検討委員会にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めていく。 看護学部人事選考委員会にて、継続して年齢構成に留意した教員補充について検討していく。</p> <p>(2)</p>
<p>設置計画履行状況 調 査 時 (平成30年2月)</p>	<p>該当なし</p>		

看護学部 看護学科

区 分	附 帯 事 項 等	指 摘 事 項 (改善)	履 行 状 況	今 後 の の 実 施 計 画
設置計画履行状況 調 査 時 (平成31年3月)	1. 専任教員数が認可時の計画から減少しているため、提示された教員の採用計画を確実に履行するよう努めること。	指摘事項 (改善)	<p>着任辞退、退職に伴う専任教員の補充については、看護学部人事選考委員会を立ち上げ、随時検討している。また、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalにて随時公募し、確実に履行するよう努めている。</p> <p>(元)</p> <p>着任辞退、退職に伴う専任教員の補充については、看護学部人事選考委員会にて、随時検討している。また、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalにて随時公募しており、確実に履行するよう努めている。</p> <p>(2)</p>	<p>今後も継続して、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalにて公募し、教員の採用計画を着実に履行するよう努める。</p> <p>(元)</p> <p>今後も継続して、本学ホームページ、及びJREC-IN Portalにて公募し、教員の採用計画を着実に履行するよう努める。</p> <p>(2)</p>
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年3月)	1. 専任教員数が設置計画から減少しているため、提示された教員の採用計画を確実に履行し、教員組織の充実に努めるとともに、教員の入れ換えに当たっても、教員体制の継続性の担保に努めること。	指摘事項 (改善)	<p>各領域ごとの教員補充状況にバラツキがあるため、バランスよく教員補充ができるように努力している。また、教員体制の継続性の担保に関しては、広い範囲で各教員の担当科目を見直し教員配置が出来るように努めている。</p> <p>(2)</p>	<p>今後も、領域ごとにバランスよく教員補充ができるように努めていく。また、学部内の「教員人事在り方検討委員会」において、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性を担保していく。</p> <p>(2)</p>
設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年3月)	2. 実習科目や演習科目をはじめとして、教員の指導体制の充実を図り、学生に対するきめ細やかな履修指導を行うとともに、学生に対する履修情報の周知・徹底に努めること。	指摘事項 (改善)	<p>履修の手引を学生に分かりやすく内容を修正し、それを用いて各学年主任が丁寧に履修指導を実施している。また、別途指導が必要な学生には、チューターが個別指導に努めている。</p> <p>(2)</p>	<p>実習委員長、領域の実習責任者、担当教員の組織体制を充実させる。また、学生に対してきめ細やかな履修指導ができるよう、履修の手引等による周知を徹底させる。</p> <p>(2)</p>

健康医療科学部 作業療法学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
<p>認 可 時 (平成30年8月)</p>	<p>1. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について検討すること。</p>	<p>遵守事項</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 健康医療科学部については、現在退職教員の補充について公募を検討しているところであるが、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(元)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 健康医療科学部については、現在退職教員の補充について公募を検討しているところであるが、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(2)</p>	<p>履行中</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、継続して教員補充について検討していく。 中期的には健康医療科学部完成年度までに、教員組織編成の将来構想について検討していく。</p> <p>(元)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、継続して教員補充について検討していく。 中期的には健康医療科学部完成年度までに、教員組織編成の将来構想について検討していく。</p> <p>(2)</p>
<p>設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年3月)</p>	<p>1. 入学定員未充足の改善に努めること。</p>	<p>指摘事項 (改善)</p> <p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試広報委員会において、広報活動の充実・活性化について検討している。情報提供時期の見直しを図り、訪問対象高校を拡大、作業療法士の職業理解を目的とした協議会の開催や出前講座、職業体験会の開催等により、令和2年度入学定員充足率95.0%となった。</p> <p>(2)</p>	<p>履行中</p> <p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試広報委員会において、継続して広報活動の充実・活性化について検討していく。</p> <p>(2)</p>

健康医療科学部 理学療法学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (平成30年8月)</p>	<p>1. 完成年度前に、定年規程に定める退職年齢を超える専任教員数の割合が比較的高いことから、定年規程の趣旨を踏まえた適切な運用に努めるとともに、教員組織編成の将来構想について検討すること。</p>	<p>遵守事項</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 健康医療科学部については、現在退職教員の補充について公募を検討しているところであるが、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(元)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、将来構想と長期的な教員採用計画を立て、教員組織の継続性の担保が図れるように努めている。 健康医療科学部については、現在退職教員の補充について公募を検討しているところであるが、採用に際しては教員組織の年齢構成に留意した採用をしていく方針である。</p> <p>(2)</p>	<p>履行中</p> <p>学校法人経営委員会において、毎年、教員補充について検討していく。中期的には健康医療科学部完成年度までに、教員組織編成の将来構想について検討していく。</p> <p>(元)</p> <p>学部内の「教員人事在り方検討委員会」にて、継続して教員補充について検討していく。 中期的には健康医療科学部完成年度までに、教員組織編成の将来構想について検討していく。</p> <p>(2)</p>
<p>設置計画履行状況 調 査 時 (令和2年3月)</p>	<p>該当なし</p>		

心理学部 臨床心理学科

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今 後 の 実 施 計 画
<p>認 可 時 (令和元年9月)</p>	<p>1. 健康医療科学部作業療法学科の定員未充足の是正に努めること。</p>	<p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試広報委員会において、広報活動の充実・活性化について検討している。情報提供時期の見直しを図り、訪問対象高校を拡大、作業療法士の職業理解を目的とした協議会の開催や出前講座、職業体験会の開催等により、令和2年度入学定員充足率95.0%となった。</p> <p>(2)</p>	<p>学長の諮問委員会である入試・広報委員会、および学部内の入試広報委員会において、継続して広報活動の充実・活性化について検討していく。</p> <p>履行中</p> <p>(2)</p>

生命理工学研究科 生命理工学専攻（修士課程）

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和2年3月)	該当なし		

生命理工学研究科 生命理工学専攻（博士後期課程）

区 分	附 帯 事 項 等	履 行 状 況	今後の の実施計画
認 可 時 (令和2年3月)	1.完成年度前に、定 年規程に定める退職年 齢を超える専任教員数 の割合が比較的高いこ とから、定年規程の趣 旨を踏まえた適切な運 用に努めるとともに、 教員組織編成の将来構 想について検討するこ と。 遵守事項	研究科内の「教員人事在り 方検討委員会」にて、将来 構想と長期的な教員採用計 画を立て、教員組織の継続 性の担保が図れるように努 めている。 生命理工学研究科について は、現在退職教員の補充、 採用に際しては教員組織の 年齢構成に留意した採用を していく方針である。 (2)	研究科内の「教員人事在り 方検討委員会」にて、中期 的な、教員組織編成の将来 構想について検討してい く。 (2)

(注) ・ 「認可時」には、認可時または届出時に付された附帯事項（学校法人の寄附行為又は寄附行為変更の認可の申請に係る附帯事項を除く。）と、それに対する履行状況等について、具体的に記入してください。

- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該年度の調査の結果、**当該大学に付された指摘を**全て記入するとともに、付された指摘に対する履行状況等について、具体的に記入してください。その履行状況等の参考となる資料があれば、添付してください。
- ・ 「履行状況」では、履行中であれば「履行中」、履行が完了していれば「履行済」を選択してください。
- ・ 該当がない場合には、「附帯事項等」の部分に「該当なし」と記入してください。
- ・ 「設置計画履行状況調査時」には、当該調査の実施年度の年を記入してください。

7 その他全般的事項

<看護学部 看護学科>

(1) 設置計画変更事項等

設置時の計画	変更内容・状況、今後の見通しなど
該当なし	該当なし

(注) ・ 1～6の項目に記入した事項以外で、設置時の計画より変更のあったもの（未実施を含む。）及び法令適合性に関して生じた留意すべき事項について記入してください。

(2) 教員の資質の維持向上の方策（FD・SD活動含む）

① 実施体制

a 委員会の設置状況

FD・SD委員会

FD・SD委員会細則

平成19年4月1日
制 定

(趣旨)

第1条 この細則は、医療創生大学学則（昭和62年4月1日）第65条第2項及び医療創生大学大学院学則（平成4年4月1日）第10条の2に基づき設置された、FD・SD委員会（以下「委員会」という。）の運営について定めるものとする。

(審議事項)

第2条 委員会は、本学教員の教育研究活動及び職員の教育研究等支援における資質向上・能力開発に関する次の事項を審議する。

- (1) 教育研究活動改善の方策に関する事項
- (2) 初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関する事項
- (3) FDに関する教員への各種コンサルティングに関する事項
- (4) 教員のFD活動の指針に関する冊子及びFD活動報告書の刊行
- (5) 授業評価の実施と結果に関する事項
- (6) 職員のSDに関する事項
- (7) その他FD・SDに関する事項

(委員会の構成及び任期)

第3条 委員会は次に掲げる者をもって組織する。

- (1) 各学部を代表する教員
 - (2) 事務局を代表する職員
 - (3) その他学長が必要と認めた者
- 2 委員の人数は、学部長会の意見を聴いて学長が定める。
3 委員の任期は、学長が定める。

(委員長)

第4条 委員会に委員長を置く。

2 委員長は、学長が指名する。

(委員会の招集)

第5条 委員会は、委員長が招集し、主宰する。

(任務)

第6条 委員会は、審議の結果を学長に報告する。また、必要に応じて、教授会に報告する。

(雑則)

第7条 委員会は、必要と認める場合は、委員以外の出席を求め、意見を聴くことができる。また、学長が認めたときには、小委員会を設置することができる。

(事務)

第8条 委員会の事務は、教務課が当たる。

(雑則)

第9条 この細則に定めるもののほか必要な事項は、委員会の意見を聴き、学長が定める。

(改廃)

第10条 この細則の改廃は、委員会の議を経て、学長が行う。

附 則

この細則は、平成19年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成22年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成26年4月1日から施行する。

附 則

この細則は、平成27年4月1日から施行する

附 則
この細則は、平成29年4月1日から施行する。
附 則
この細則は、平成30年4月1日から施行する。
附 則
この細則は、平成31年4月1日から施行する。

b 委員会の開催状況（教員の参加状況含む）

毎月1回実施（ただし、夏期休業期間は休会とする場合がある。また必要に応じて臨時に開催する場合がある。）

c 委員会の審議事項等

- (1) 教育研究活動改善の方策に関する事項
- (2) 初任者及び現任者の研修計画の立案・実施に関する事項
- (3) FDに関する教員への各種コンサルティングに関する事項
- (4) 教員のFD活動の指針に関する冊子及びFD活動報告書の刊行
- (5) 授業評価の実施と結果に関する事項
- (6) 職員のSDに関する事項
- (7) その他FD・SDに関する事項

② 実施状況

a 実施内容

- ・FD・SD研修会の実施
- ・授業改善アンケートの実施
- ・授業参観制度の実施

b 実施方法

- ・FD・SD研修会の実施
委員会において企画立案し実施している。基本的な内容として、学外から講師を招聘し、午前の部を講演、午後の部をグループワークとして実施している。
- ・授業改善アンケートの実施
前期及び後期の授業終了時期に授業内容に関するアンケートを学生に対して実施している。
- ・授業参観制度の実施
教員相互による授業参観制度を導入しており、見直し・検討を行いながら、教育力の向上に努めている。

c 開催状況（教員の参加状況含む）

- ・FD・SD研修会の実施
全学FD・SD研修会（令和元年度：1回）
第1回（令和元年9月）：参加率 81.3%
- ・授業改善アンケートの実施
前期：参観者数 124名
後期：参観者数 99名

d 実施結果を踏まえた授業改善への取組状況

- ・FD・SD研修会については、大学改革の喫緊の課題をテーマとし、ICT活用による授業改善等、普段の授業展開（改善）に貢献している。
- ・授業改善アンケートについては、担当教員への結果のフィードバック、及び学内での公表をとおして、担当教員自身並びに教員相互の授業改善を促す仕組みづくりを検討しており、授業参観制度を導入し、検証を行っている。

③ 学生に対する授業評価アンケートの実施状況

a 実施の有無及び実施時期

前期授業終了時期に実施（前期：7月～9月）

b 教員や学生への公開状況、方法等

教員：担当科目の結果を個別にフィードバック、ホームページで公開

学生：ホームページで公開

(注) ・ 「①a 委員会の設置状況」には、関係規程等を転載又は添付すること。

「②実施状況」には、実施されている取組を全て記載すること。(記入例参照)

(3) 教育課程連携協議会に関する事項

※専門職大学、専門職短期大学、専門職大学院以外は「該当なし」と記入ください。

① 体制

a 委員会の設置状況

該当なし

b 委員会の開催状況(回数や開催日など)

該当なし

c 委員会の審議事項等

該当なし

d その他

該当なし

② 審議状況

a 審議した内容

該当なし

b 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への見直し状況

該当なし

c 教育課程連携協議会が審議した内容を踏まえた大学での教育課程への反映状況

該当なし

(4) 自己点検・評価等に関する事項

- ① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見
- ・学部完成までは申請時の教育課程を履行しつつ、将来に向けて検証が必要となる。
- ② 自己点検・評価報告書
- a 公表（予定）時期
- ・平成23年4月 公表
 - ・令和2年10月 公表予定
- b 公表方法
- ・大学ホームページ上に公開中
 - ・大学ホームページ上に公開予定（令和2年10月末を予定）
- ③ 認証評価を受ける計画
- ・平成30年度に評価機関（大学基準協会）の大学評価（認証評価）を受けた結果、「現時点での判定を保留」となり、令和3年度までに再評価を受けるよう指示があった。
 - 本学では、令和2年4月に再評価の申請をした。

(注) ・ 設置時の計画の変更（又は未実施）の有無に関わらず記入してください。

また、「① 設置の趣旨・目的の達成状況に関する総括評価・所見」については、できるだけ具体的な根拠を含めて記入してください。

なお、「② 自己点検・評価報告書」については、当該調査対象の組織に関する評価内容を含む報告書について記入してください。

(5) 情報公表に関する事項

- 設置計画履行状況報告書（令和2年度）
- a 公表予定の有無 [有 ・ 無]
- ≪ aで「有」の場合 ≫
- b 公表（予定）時期 [調査結果公表後1ヶ月以内 ・ 公表後2～3ヶ月以内 ・ 公表後3ヶ月以降]
- c 公表方法 [ウェブサイトへの掲載 ・ その他 ()]
- ≪ aで公表「無」の場合 ≫
- d 公表しない理由 []

※設置計画が各大学等が社会に対して着実に実現していく構想を表したものであることに鑑み、

設置計画履行状況報告書については、各大学等のウェブサイト公表するなど、積極的な情報提供をお願いします。